

農業普及の研究と実践

2024年（令和6年）3月

（令和5年度春季大会資料）

日本農業普及学会



目 次

I シンポジウム：農業における協働者のあるべき姿

3月7日

開会・挨拶 (13:00～13:10)

基調講演 (13:10～14:10) 3
立ち上げた農業系行政職員コミュニティから学んだ協働者の役割
佐川 友彦 (ファームサイド株式会社 代表取締役)

シンポジウムの趣旨説明 (14:10～14:20) 27
内山 智裕 (東京農業大学国際食料情報学部教授)

第1報告 (14:20～14:45) 31
油谷百合子 (茨城県県南農林事務所つくば地域農業改良普及センター)

第2報告 (14:45～15:10) 35
山端 直人 (兵庫県立大学自然・環境科学研究所 教授)

休憩 (15:10～15:30)

総合討論 (15:30～17:00) 座長 内山 智裕

コメンテーター・コメント 44
山中 聡 (合同会社クロップマネジメントラボ)

II 研究発表

3月8日 9:50 開会

座長： 藤代 岳雄 (全国農業改良普及職員協議会事務局長)

発表01 (9:50～10:10) 農業者と関係機関の連携によるオーガニックビレッジ
の推進—兵庫県丹波篠山市の取り組みから

.....49

○森本 秀樹 (元兵庫県立農林技術総合センター専門技術員、現丹波篠山市農都創造政策官)

岸野 良広 (兵庫県丹波篠山市農都創造部)

竹見 政徳 (兵庫県丹波篠山市農都創造部)

武中 和也 (兵庫県丹波篠山市農都創造部)

発表02 (10:10～10:30) 女性農業者の労働安全管理及び健康支援に向けた検討

..... 54

○磯山 陽介 (三重県農業研究所、
大阪大学大学院基礎工学研究科)

	金子 美樹 (大阪大学大学院基礎工学研究科)	
	清野 健 (大阪大学大学院基礎工学研究科)	
発表03 (10:30 ~ 10:50)	新規就農者支援に関する『見える化』手法の研究 —新規就農者定着促進のために普及組織がすべきこと—	60
	○金丸 隆 (福岡県筑後農林事務所八女普及指導センター)	
	関尾 政典 (岐阜県病虫害防除所)	
	関戸 章一 ((一社) 全国農業改良普及支援協会)	
発表04 (10:50 ~ 11:10)	混合研究法による農家の技術変革の復元 —東北タイの例と今後の協働への応用の展望	71
	○ジョン・S・コルトウェル(日本農業普及学会特別顧問)	
	アルマー・プロムブット (コカイ大学農業普及と開発学科准教授)	
発表05 (11:10 ~ 11:30)	農業普及は教育か、学習か —パラダイムシフトに関する理論的検討—.....	82
	大室 健治 (農研機構)	
発表06 (11:30 ~ 11:50)	土中施肥技術【深肥】実証と普及事業サービスとの シナジー.....	88
	佛田 利弘 (KDBI株式会社代表取締役CEO)	

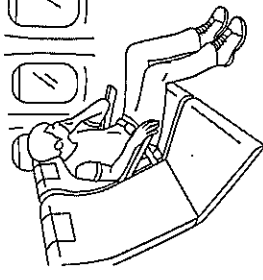
III 令和5年度日本農業普及学会・学会賞授与式 11:50~12:00
令和元年度日本農業普及学会賞の選考結果..... 95

閉会 12:00

協賛団体・企業 (アイウエオ順) 99

お品書き

1. 自己紹介
2. 農業系行政職員コミュニティでの活動から学んだ協働者の役割
3. ファームサイドのビジョン



©2024 FARMSIDE Inc.

立ち上げた農業系行政職員コミュニティから学んだ協働者の役割

2024.03.07

佐川友彦 (ファームサイド株式会社)

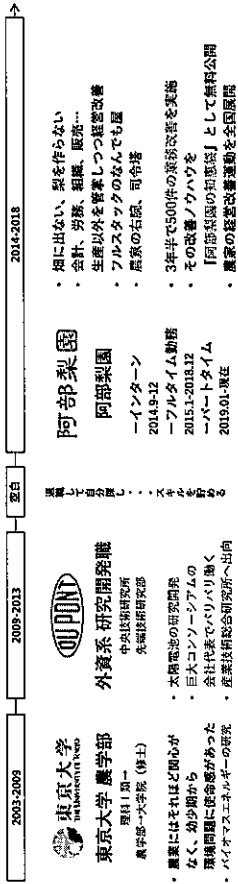
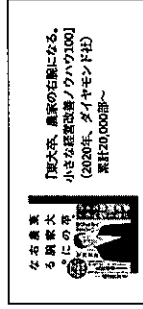
FARM SIDE

自己紹介



佐川友彦 ファームサイド株式会社 代表取締役

- ・ 通称「農家の右腕」
- ・ 農家の経営改善エグゼクティブ
- ・ 全国を回りながら農業界隈で日本一登録している人

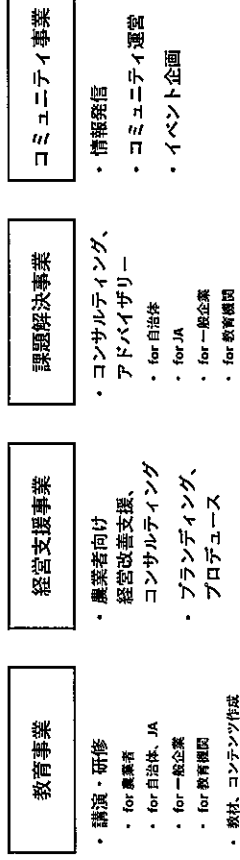


©2024 FARMSIDE Inc.

自己紹介

FARM SIDE

かんがえる・つくる・つたえる・かえる



©2024 FARMSIDE Inc.

阿部梨園の経営改善

阿部梨園 | 現在



- ・ 梨農園@栃木県宇都宮市
- ・ 生産方針：量より質
- ・ 直売率：≒ 100% (2016~)
- ・ 代表：阿部 英生
 - ・ アラフオー、3代目
 - ・ 26歳で事業承継



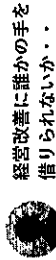
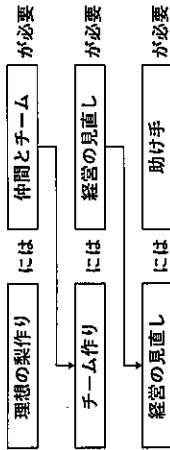
4.2ha、販売8品種



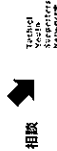
梨水、梨水、梨水、梨水、梨水

©2024 FARMSIDE Inc.

阿部梨園の経営改善 | インターン編



経営改善に誰かの手を借りられないか...



相談
NPO法人とちぎユース
サポーターズネットワーク

インターンシップ (4ヶ月、2014.9-12) で台流!

©2024 FARMSIDE Inc.

阿部梨園の経営改善 | インターン編

阿部梨園 | 2014年当時

事業拡大の好機

- ・ 栃木県内トップの直販量
- ・ 先代から直販重視
- ・ 地元ノウハウ、顧客開
- ・ 仲間加入前から高い販売率

品質の高い評価

- ・ 百貨店、一流レストランなどの
- ・ お取り扱いが増加



ギャップ!!

事業拡大の阻害要因

従業員が定着できない

- ・ 生産 (-労働/雇用) の
- ・ 季節性、不安定性
- ・ 雇用体制、条件の不足

経営管理できていない

- ・ 思いつきの意思決定
- ・ 厳格な経営体制



技術と管理を追求するだけでは理想の梨作りは実現できない...!

©2024 FARMSIDE Inc.

100の組織変化プロジェクト“プロミス100”

変わるべき要素の抽出 変わるべき方向性の見定め 変わり続ける仕組みづくり

プロミス=約束
=必ず変わるという
意思を込めて命を

- ・ 4ヶ月で100件の業務改善を実施する (正味250時間=2.5時間/件)
- ・ 小さな業務の変更でも1件とカウントする 地味改善、マイナーチェンジ

約束事その1: 小さいことに忠実に

それまでの阿部梨園の変化

- ・ 大きい (緊急な) こと
 - ・ 好きなこと
 - ・ 得意なこと
 - ・ 人目につくこと
 - ・ 目立つこと
- プロミス100
- ・ 小さくても重要なこと
 - ・ 緊急でなくても重要なこと
 - ・ 嫌いなこと
 - ・ 苦手なこと
 - ・ 外から見えにくいこと

約束事その2: 野域を作らない

阿部梨園 (受け入れ側)

- ・ 取り替わらない、本音でぶつかる
 - ・ 提案を吟味して共に取り組む
- 佐川 (インターン生)
- ・ 躊躇せず踏み込む
 - ・ よく考えて最善の提案をする

©2024 FARMSIDE Inc.

500件

阿部梨園が2014年～2017年に
実施した業務改善/経営改善の数

※くだらないの含む

©2024 FARMSIDE INC

©2024 FARMSIDE INC

≒100%

阿部梨園の直売率
(2016年～)

※広量の直売率

阿部梨園の経営改善 | フルタイム編

👉 経営改善を500件達成	👉 優秀な若手スタッフの正規雇用
👉 意思決定の合理化、計数管理	👉 スタッフ教育、育成への注力
👉 事務、総務の刷新	👉 生産管理技術の向上、体系化
👉 経理、会計の見直し、仕組み化	👉 注文管理のオペレーション改善
👉 全方位的なコスト削減	👉 高付加価値化、ブランディング
👉 労働条件、労働環境の改善	👉 直売率100%を達成

最低限ながら、当初の目的は達成された

©2024 FARMSIDE INC

阿部梨園の知恵袋PJ



阿部梨園の知恵袋：農家の小さい改善事例300

<https://tips.abe-nashien.com>

- up to 300件
- 阿部梨園の事例を追体験しつつ、経営改善や業務改善について学べる

学習コンテンツ

- 背景 / 目的 / 内容 / 結果 / 感想
- 発展 / 解説 / 参考
- 幅広いジャンル
 - 経営 / 総務 / 会計 / 労務 / スタッフ、チーム / 生産 / 商品 / 販売 / プロモーション / マーケティング

趣旨説明

課題意識

- 日本の農業や農業者の役に立ちたいと思って就職したが、思ったとおりのことができていない
- 現場や地域の課題解決に困っている
- 農業者さんへの効果的な支援方法がわからない
- 農業者さんのニーズや本心がわからない、良い関係が築けない
- 良い事業、良い関係・を築きたいがアイデアが浮かばない
- 予算がとおらない、きゅうくつすぎる
- 部署内で同じような重労働の人が少ない、前向きな人が少ない
- 廣れる地域に見て取れぬふりを続けすぎて、責任感が死にそう
- 現在の職務に悩みを感じている
- 今後のキャリアに悩んでいる
- うまくいっているモデルケース、ノウハウを知りたい
- 近い立場の、モチベーションの高い人となりたい

なるほど...



佐川

行政職員のみなさん

©2024 FARMSIDE Inc.

趣旨説明

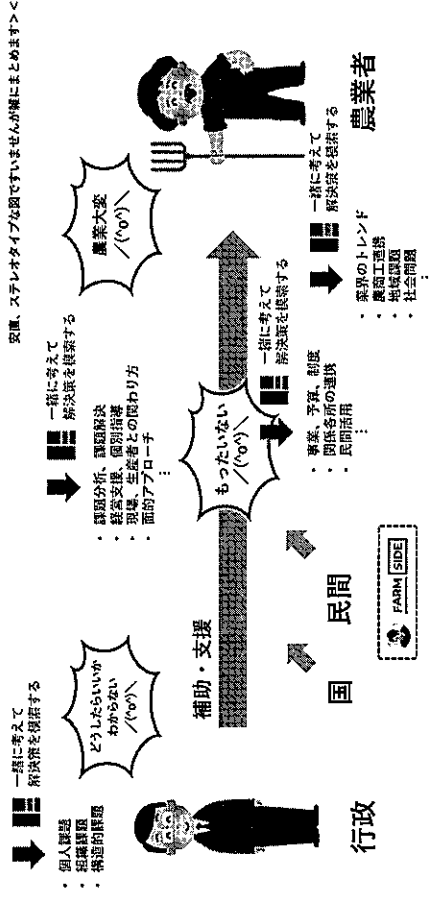
目的

農業現場の”お役に立つ”

1. 農業者、地域の課題解決
 - ・ 成果につながる支援、制度、事業...
2. 行政職員の課題解決
 - ・ 参加者みなさんの業務、意欲、スキル、キャリア...
3. 自治体、業界の課題解決
 - ・ 自治体農政のあり方、ソリューション検討

©2024 FARMSIDE Inc.

趣旨説明



©2024 FARMSIDE Inc.

趣旨説明

サブテーマ

主体的課題解決スキルの獲得

- 自分で考え、自分で行動する
- 答えのない問いに向き合う
- オープンに他者とつながる
- 新しいスキルの獲得
- 自分を変えていく
- フレキシブルな”お役に立ちたい人”人生

©2024 FARMSIDE Inc.

趣旨説明

サブテーマ

職員人生が変わるくらい充実した体験

- 🔑 ここじゃないとできない深い話、学び
- 🔑 めっちゃ楽しくて生産的な行動経験
- 🔑 わかり会える越境した仲間づくり
- 🔑 本質的な課題解決の推進

➡ 業界へのポジティブな波及効果

©2024 FARMSIDE, INC.

農業⇄行政の課題マップ v0.1

powered by ファームサイド株式会社

に立ちたい 農業現場お役人カイギ

農業現場のお役人として、現場を切り拓く現場お役人カイギ

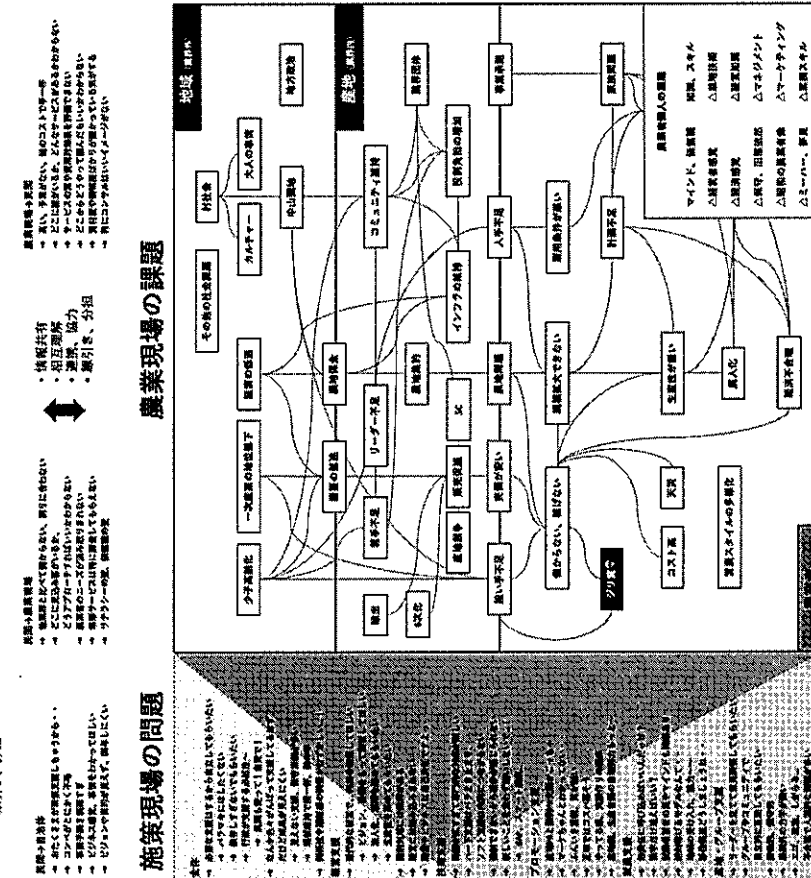
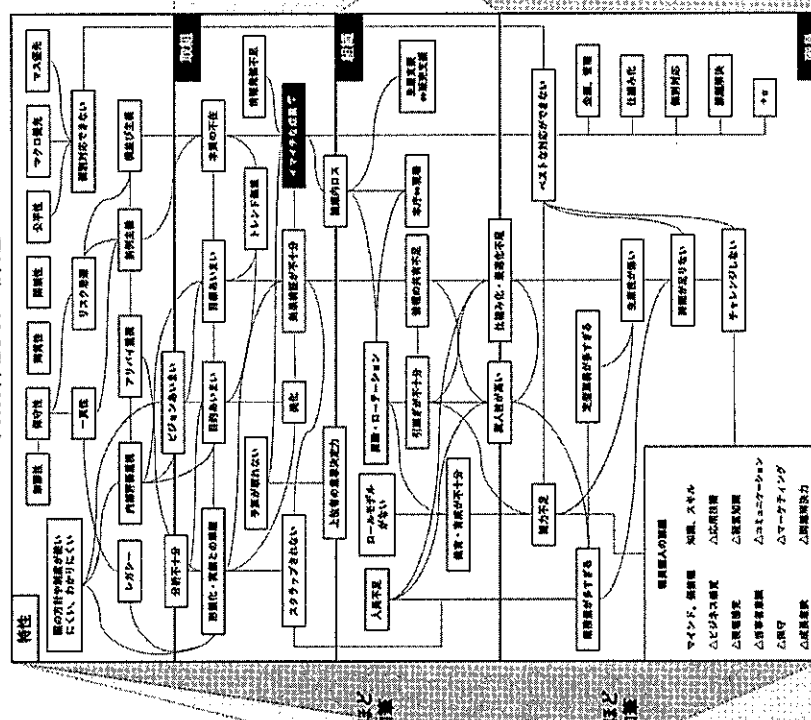
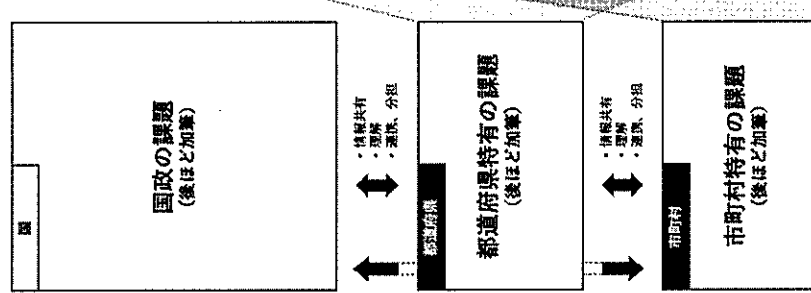
農業現場のお役人として、現場を切り拓く現場お役人カイギ

- ・「農業現場お役（に立ちたい）人カイギ」のメンバーに課題を列挙してもらって（TPO）、そこからファームサイドが川が内側を流すように整理したものです。
- ・単人単家で抜け遅れぬようがあることはお伝えしますが、仕様が異なります。仕向も異なります。
- ・足らない要素もあるでしょうが、レイアウト上はこのくらいが限界かなと思います。
- ・ケースバイケースです。個々のケースですべてが該当するわけではないので、ご事情は、課題のたまたま台座とさせていただきます。

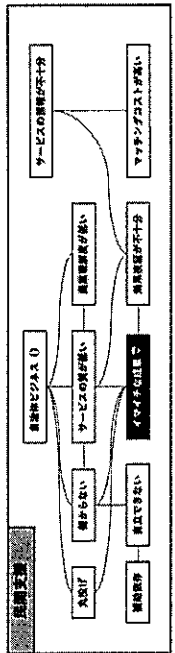
自治体農政の課題

- ・自治体農政
 - 財政力不足
 - 人材不足
 - 農業者との関係構築が難しい
 - 農業者の課題を解決するための施策が不足している
 - 農業者の課題を解決するための施策が不足している
 - 農業者の課題を解決するための施策が不足している
 - 農業者の課題を解決するための施策が不足している

農業現場の問題



民間支援の課題



- ・民間支援
 - 財政力不足
 - 人材不足
 - 農業者との関係構築が難しい
 - 農業者の課題を解決するための施策が不足している
 - 農業者の課題を解決するための施策が不足している
 - 農業者の課題を解決するための施策が不足している
 - 農業者の課題を解決するための施策が不足している

詳しくは、お問い合わせください。お問い合わせ先：mail@farmside.co.jp

趣旨説明

行動規範 Code of Conduct

- 1. 本音で話しましょう。**
空気を讀んだ一般論より、空気を讀まずとも自分の体験に基づく具体論で話しましょう。
- 2. 他人の意見を尊重しましょう。**
立場や経験の違いを優劣ではなく視点の違いと考えましょう。
- 3. 会議で得た情報は会議内限りとしましょう。**
具体的な情報を外部で使用する際は、事務局と情報提供者に確認しましょう。
- 4. 役人の良心に従って参加しましょう。**
そのほか、全体の奉仕者であることを自覚し常に公正な態度で議論に参加しましょう。

お役人カイギの活動まとめ

1年間の振り返りかえり

#0 説明会・座談会

6.17(FRU) 2000-

#0

に立ちたい

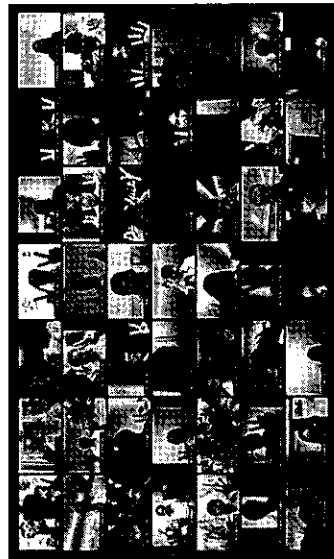
農業現場お役人カイギ

行徳農具のみなさんと一緒に、農業現場の課題を解決するコミュニティ

説明会・座談会

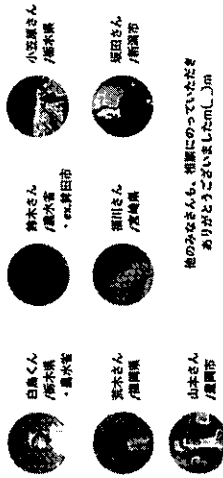
powered by FARM SIDE 株式会社

FARM SIDE

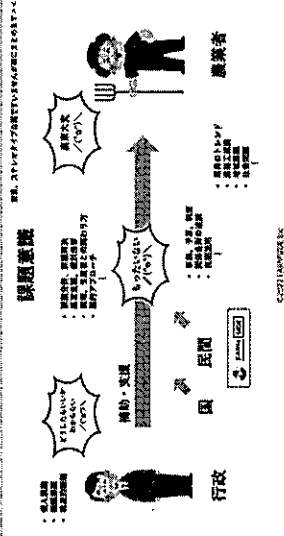


趣旨説明

相談に乗ってくれたお友だち



趣旨説明



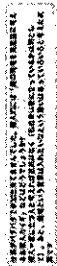
趣旨説明

グループ名

に立ちたい

農業現場お役人カイギ

行徳農具のみなさんと一緒に、農業現場の課題を解決するコミュニティ



powered by FARM SIDE 株式会社

プレキックオフ会。企画主旨を説明し、賛同者を募りました | 112名

©2024 FARMSIDE Inc.

#1 課題マップ回

8.31 (WED)
20:00

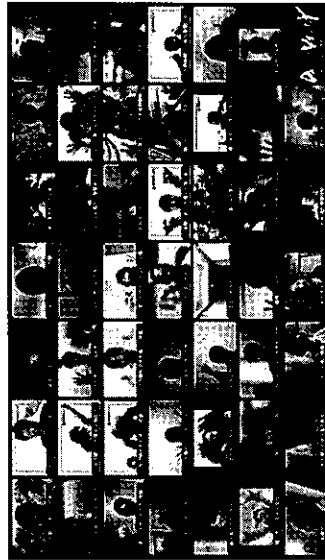
#1
に立ちたい
農業現場お役人カイギ

行政機関のみなさんと一緒に農業現場の課題を解決するイベント
農業現場お役人カイギ

／ 研修メンバー6名+佐賀市の農業者+オープンファクトリア仲間へ

powered by ファームサイド株式会社

FARM SIDE

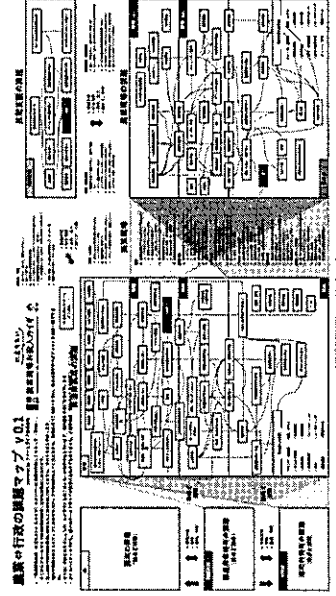


農業⇨行政の課題マップを作ろう

お400件！

農業現場の課題を行政機関のみなさんと一緒に解決するイベントを開催します。お役人カイギとは、行政機関のみなさんと一緒に農業現場の課題を解決するイベントです。お役人カイギとは、行政機関のみなさんと一緒に農業現場の課題を解決するイベントです。お役人カイギとは、行政機関のみなさんと一緒に農業現場の課題を解決するイベントです。

農業⇨行政の課題マップを作ろう



ゲスト座談会

① 農業現場や お役人カイギ に課題が 反映されていない	② 農業現場など を 共有しているが お役人カイギ に 課題が 反映されていない	③ 農業現場など を 共有しているが お役人カイギ に 課題が 反映されていない	④ 農業現場など を 共有しているが お役人カイギ に 課題が 反映されていない	⑤ 農業現場など を 共有しているが お役人カイギ に 課題が 反映されていない	⑥ 農業現場など を 共有しているが お役人カイギ に 課題が 反映されていない
---------------------------------------	--	--	--	--	--

正式キックオフ会。課題マップがんばってつくりました。集合知 | 131名

#2 産地PR、農産物ブランディング回

10.28(FRI)
2024

#2

に立ちたい

農業現場お役人カイギ

産地PR、農産物ブランディング回

powered by ファームサイド株式会社

FARM SIDE

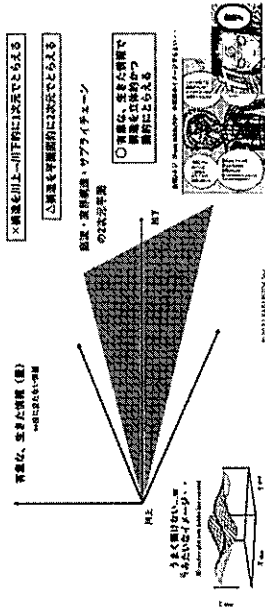


ゲストセッション

1. 「ニーズに応えるパン用小麦産地の育成〜産地育成からここまでできたこと〜」 (茨城県)
#BIBマーファインズ #ニーズ対応 #パン用小麦の切りかわり #ゼロから1000トン産地 #行政による産地育成一貫支援
2. 「将来を裏支えた輸出産地づくり〜産地育成で行政の役割を考える〜」 (栃木県)
#行政の役割 #産地育成 #輸出産地づくり #行政の役割 #行政の役割 #行政の役割
3. 「10つの実践事例〜産地育成のヒント〜」 (栃木県)
#産地育成 #産地育成 #産地育成 #産地育成 #産地育成 #産地育成
4. 「1000トン産地の育成〜産地育成の10年計画〜」 (山梨県)
#ニーズ対応型産地 #BIBの産地育成 #産地育成 #産地育成 #産地育成
5. 「キャラクターを活用した産地ブランディング」 (山梨県)
#キャラクター #産地ブランディング #産地ブランディング #産地ブランディング

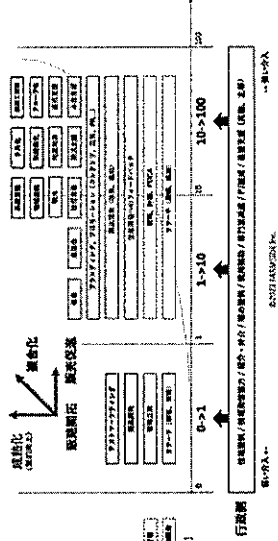
END FARM SIDE

② サプライチェーンを「立体的に」理解する



END FARM SIDE

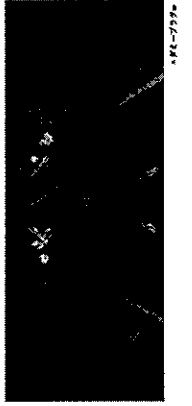
(行政) 産地PR、農産物ブランディングの全体像



END FARM SIDE

おまけ 生産者と2人乗りになる

- ・ どうせ覚悟するのなら、本気で。
- ・ 個人でコミットする。私を作った自分の顔も入れる。



END FARM SIDE

5人の実践者ごとのグループに分かれて話を聞く激熱会でした | 100名

©2024 FARMSIDE Inc.

#3 農業者さんとのコミュニケーション、関係構築回

12.15(THU) 20:00-20:00

#3

に立ちたい、

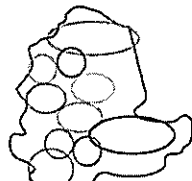
農業現場お役人カイギ

powered by ファームサイド株式会社

農業者さんとの関係構築、コミュニケーションに必要となるスキルを学ぶ。

FARM SIDE

山梨県 志村さん




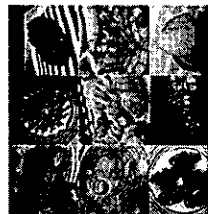
果の生産（長野県産）の個人の専力で、各地域に生産者のLINEグループが構築！

- 本行事務の中でグループLINEの能力が以下の範囲で発揮
 - 果の事業の開始、イベント、セミナーの開催
 - 農業者の消費意識がアイディアバトルされ、業務へ反映
 - 責任感高揚の立場として、以下のグループLINEも作成
 - 「山梨産フルーツ研究会」【山梨産果物の研究会】
 - それぞれの課題を把握しながら業務に活かそうとする
 - 高糖以外のニーズも分かり、対応もあげなくなる

もっと色々な思いが形になる仕組みが作れるといいな...

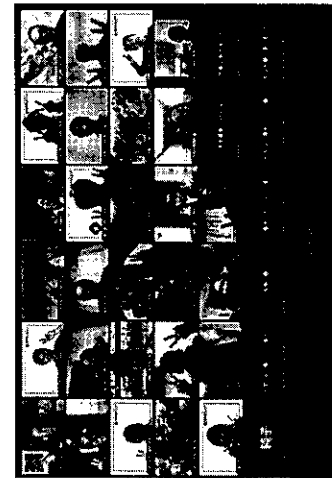
栃木県 白鳥さん

スイーツ男子出陣中 タルトで果物創作PR

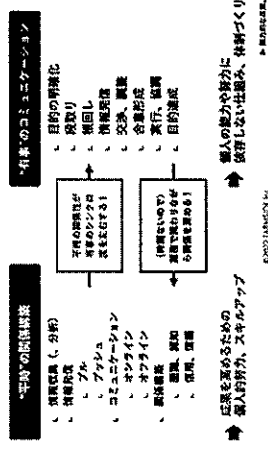



果物創作PRイベント。果物と照らしながら、スイーツの魅力を伝えるイベント。イーストやタルトなどのスイーツで果物の魅力を伝えるイベントを開催中。

「フルーツ男子出陣中」のメンバーは、果物創作PRイベントを開催中。メンバーは、果物創作PRイベントを開催中。



農業者さんとのコミュニケーション、関係構築



一対一で良い関係を築く

自己開示する


- （付き合いくらい）
 - 何故か
 - 経験、意思
 - 知識、スキル
 - つながり、立場
 - 考え方、強み
 - 習慣、性格
 - 接し方、印象

バッドプラクティス

- 業務的な連絡しかない
- 自己紹介が好印象につながらない

チャットリスト

- 簡単な自己紹介の内容を添えておく
- 自分の考えを添えておく
- 求められているキリヤや立ち回りを添えておく



お役に立つ、の本質です。属人的なスキルだからこそシェアの可能性を感じました | 62名

#4 新規就農支援

2.25(SAT)
2000-

#4
に立ちたい
農業現場お役人カイギ

打撃のなかにも一歩に農業支援の現場を支援し、農業を
新規就農支援についてみんなが学びよう

powered by 77-14141 株式会社
FARM SIDE



みんな実は悩んでいる新規就農支援。熱い事例紹介に一同絆されました | 83名

ゲストセッション

1. 「新規就農者の今年1~4月の新規就農者に必要なもの〜」
(中山さん、野田さん)
今年1~4月の新規就農者の中には、農地確保や農機具の確保など、多くの課題を抱えている方がいます。このセッションでは、各都道府県の農業関係者から、新規就農者へのサポート体制や、農地確保の具体的な方法について、お話を伺います。
2. 「若い世代を呼び込む子供〜就農体験まで各世代に向けた新規就農支援の推進〜」
(渡辺さん、平塚さん)
新規就農者の裾野を拡大するためには、若い世代の関心を喚起することが重要です。また「農業を学びたい」という気持ちを持ってもらうこと、新規就農者としてのスキルアップ、地域での生活環境の整備など、各世代に向けた支援体制の構築について、お話を伺います。
3. 「みんなに知ってもらって農業で育つ若い手、新規就農者」
(長瀬さん、野田さん)
農業は、地域、人、自然のつながりによって成り立ち、世代を超えて継承されていく産業です。新規就農者だけでなく、地域社会全体の協力によって、農業は持続可能な産業として育ちます。若い世代の関心を喚起し、農業で育つ若い手を育て、地域社会と連携して農業を推進していくことが重要です。

新規就農支援

就業支援の方策①： 各種施策をこねる、自ら「つながり」になる

就業支援の方策①：
各種施策をこねる、自ら「つながり」になる

- ・ 農地確保
- ・ 農機具の確保
- ・ 資金調達
- ・ 技術指導
- ・ 販路開拓
- ・ 就労支援
- ・ 生活支援

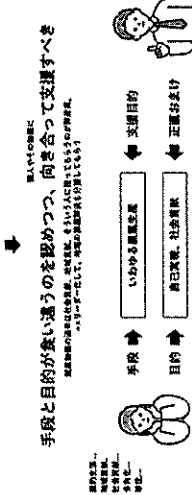
「つながり」になる

- ・ 地域住民との連携
- ・ 農業関係者との連携
- ・ 行政との連携

就業支援の方策①：「父親的支援」と「母親的支援」を両立する

新規就農支援

自己実現に向き合うべきか



新規就農支援

就業支援の方策③：「父親的支援」と「母親的支援」を両立する

就業支援の方策③：「父親的支援」と「母親的支援」を両立する

父親的支援：収入向上、生活安定

母親的支援：技術指導、販路開拓

©2024 FARMSIDE Inc.

#3.5 #4.5 交流会

1.22(SUN)
20:00-

#3.5

に立ちたい、

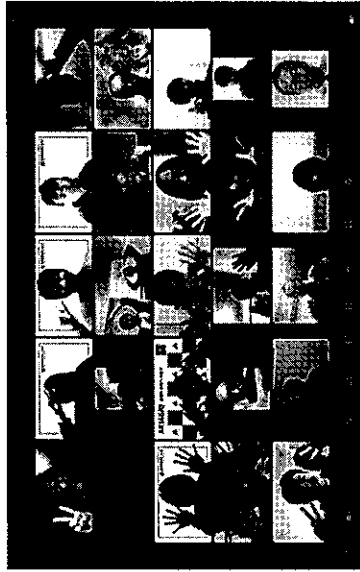
農業現場お役人カイギ

日本農協(JA)と、農業者の協力を促す会

オンライン交流会

powered by ファームサイド株式会社

FARM SIDE



19% 農業現場お役(に立ちたい)人加芋会

自己紹介 マーク / 水産部(水産) / 農業者

。 自身の経験から地域の現状 / 課題を共有

。 課題を共有し、解決策を共有

。 今後の活動について話し合う

。 この会場で「お役人」を体験しよう

19% 芋会

3.19(SUN)
20:00-

#4.5

に立ちたい、

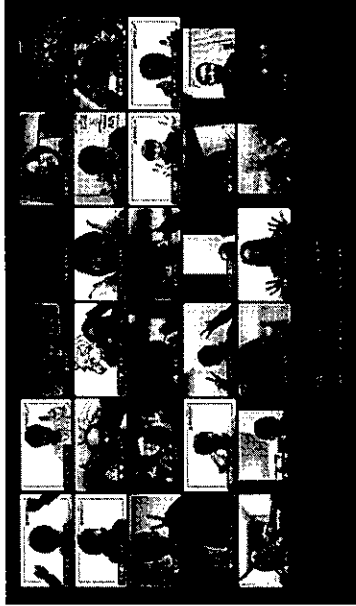
農業現場お役人カイギ

日本農協(JA)と、農業者の協力を促す会

オンライン交流会

powered by ファームサイド株式会社

FARM SIDE



合間に有志の幹事メンバー企画で交流会を開催しています！勉強会の感想戦をしたり、雑談したり・・・

#5 久松さんゲスト回

5.14(SUN) 2000-

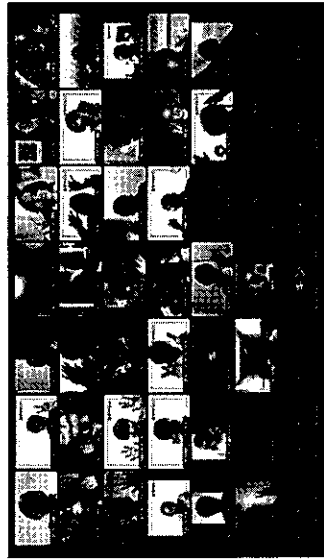
#5 新ジャンル2週目
に立ちたい

農業現場お役人カイギ

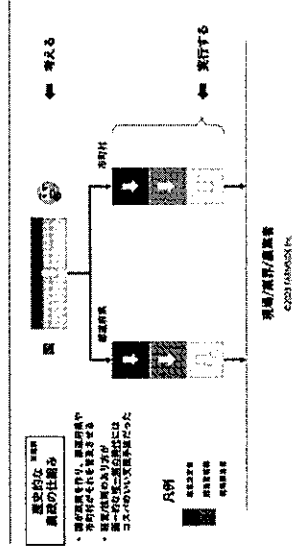
久松園 久松さんよたのしく暮らし！
～農業がもっと変わる時代の地方農政と、
農業現場お役(に立ちたい)人の目指す姿～

powered by フォームが形成会社

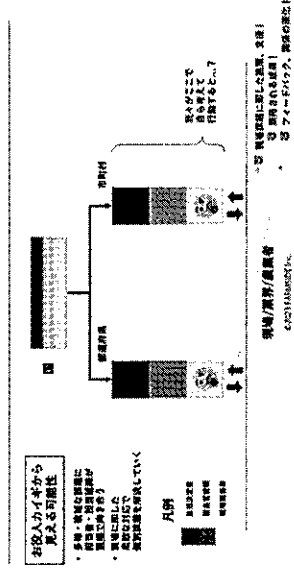
FARM SIDE



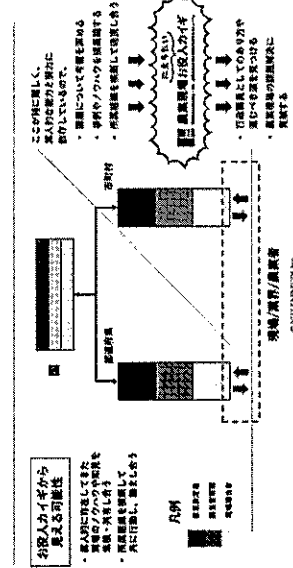
農業現場におけるお役 (に立ちたい) 人の存在意義



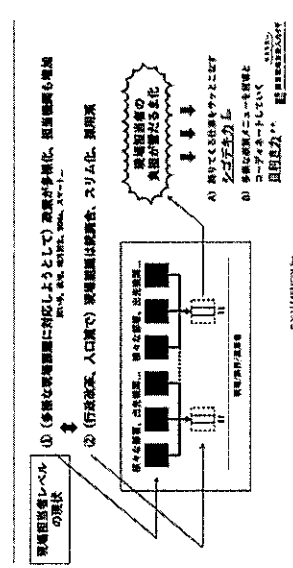
農業現場におけるお役 (に立ちたい) 人の存在意義



農業現場におけるお役 (に立ちたい) 人の存在意義



補足



久松さんに圧倒されながらも正面から妥協せず議論しました。翌日さっそく反省会もW | 130名

©2024 FARMSIDE Inc.

#6 #7 事業承継巡回

#6
8.9(WED)
20:00-

事業承継支援についてみんなを考えたよう前編
～行政の立場からどうお役に立てるか～

に立ちたい
農業現場お役人カイギ
powered by ファーム側株式会社

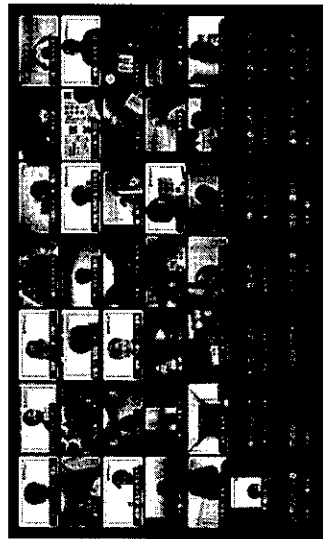
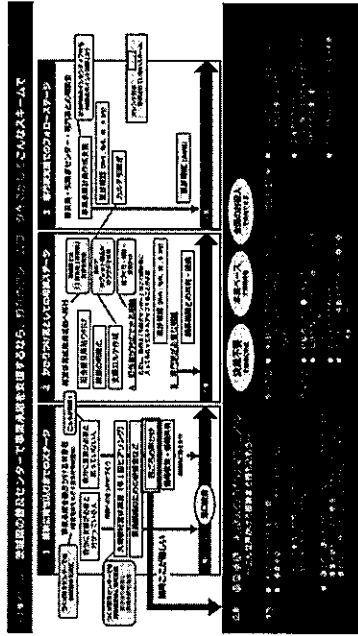
FARM SIDE

#7
9.24(SUN)
20:00-

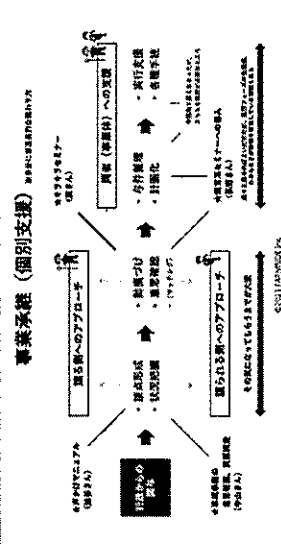
事業承継支援についてみんなを考えたよう後編
～行政の立場として世代交代をどう位置づけられよいか～

に立ちたい
農業現場お役人カイギ
powered by ファーム側株式会社

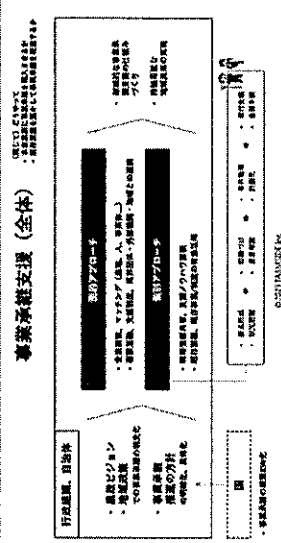
FARM SIDE



まとめ



まとめ



竹本さん伊東さんにご協力いただき2回にわたって開催し、各地での活動へ波及しました | 84名、73名

#8 市町村農政

12.7 THU 2000

#8

市町村農政についてみんなを考えよう
～農業現場に向き合う、シン・市町村農政～

(にまをたい)

農業現場台役人カイギ

powered by FARM SIDE

市町村農政

農政の役割、農政の現場

農地確保

農地の確保は、農政の重要な役割である。

市町村農政

市町村農政は、農政の現場を支える役割である。

その他

農政の現場を支える役割である。

市町村農政の仕事の概要

農地確保

農地の確保は、農政の重要な役割である。

市町村農政

市町村農政は、農政の現場を支える役割である。

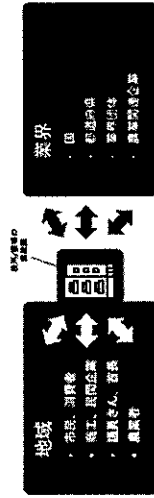
その他

農政の現場を支える役割である。



市町村農政まとめ

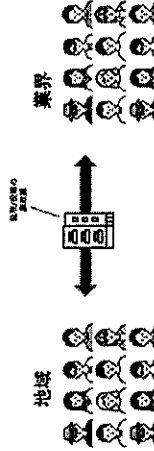
市町村農政の方策①：地域と農業界をつなぐ通訳、出島になる



農産物の産地と消費地をつなぐ通訳、出島になる。農産物の産地と消費地をつなぐ通訳、出島になる。

市町村農政まとめ

市町村農政の方策③：課題解決の場づくりに徹する



農産物の産地と消費地をつなぐ通訳、出島になる。農産物の産地と消費地をつなぐ通訳、出島になる。

専門職が少ない割に業務が多岐にわたる市町村にハイライトして研究しました。漫才も | 68名

#番外オフ回

10.14(Sat)
-10.15(Sun)

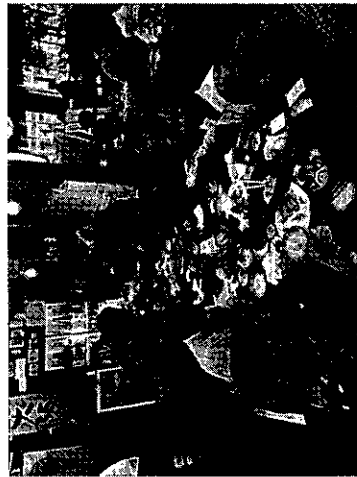
#MEET-UP

合って語るら! 関東オフ会 @ 栃木
~ 阿部梨園 → 情報交換会 → 交流会 → 那須方面 ~

にまろたい
農業現場お役人カイギ
FARM SIDE
AGRICULTURAL-TELECOMMUNICATIONS PROFESSION

powered by 77-A9-1 株式会社

FARM SIDE



1.13(Sun)

#MEET-UP

合って語るら! 新年会 @ 東京

にまろたい
農業現場お役人カイギ
FARM SIDE
AGRICULTURAL-TELECOMMUNICATIONS PROFESSION

powered by 77-A9-1 株式会社

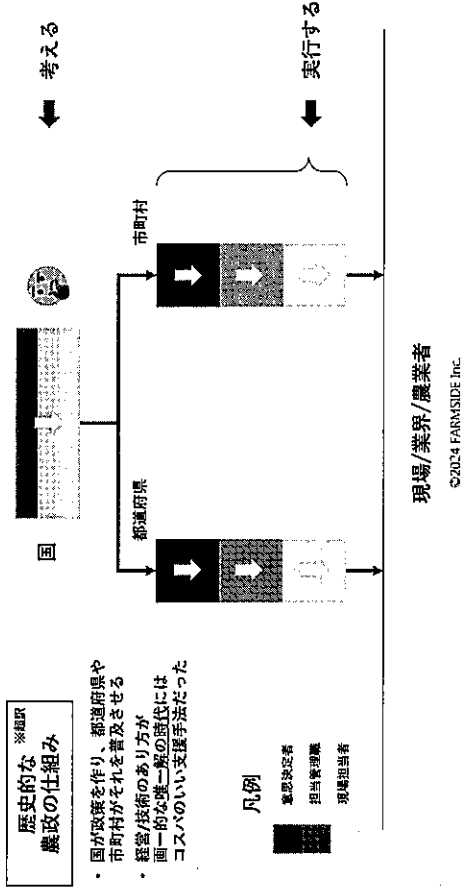
FARM SIDE



各地でオフ会を開催し、横のつながりを深めています。個別の視察受け入れや相談、互助も生まれています。

©2024 FARMSIDE Inc.

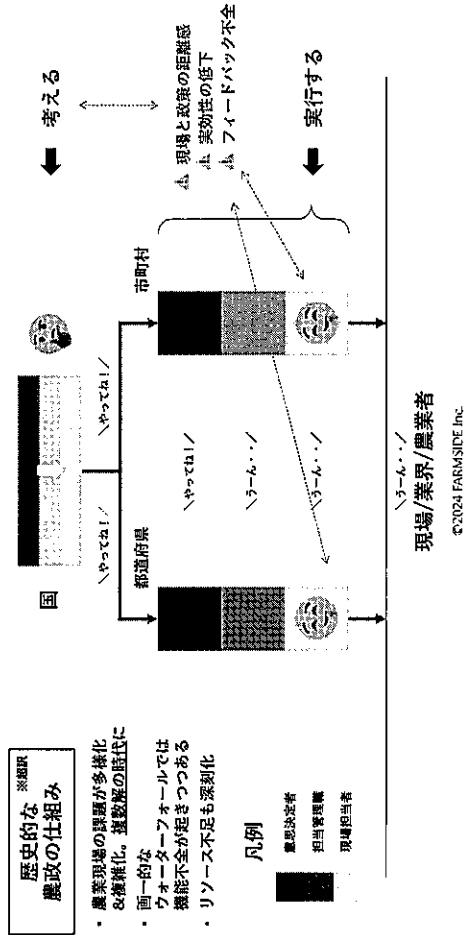
農業現場におけるお役（に立ちたい）人の存在意義



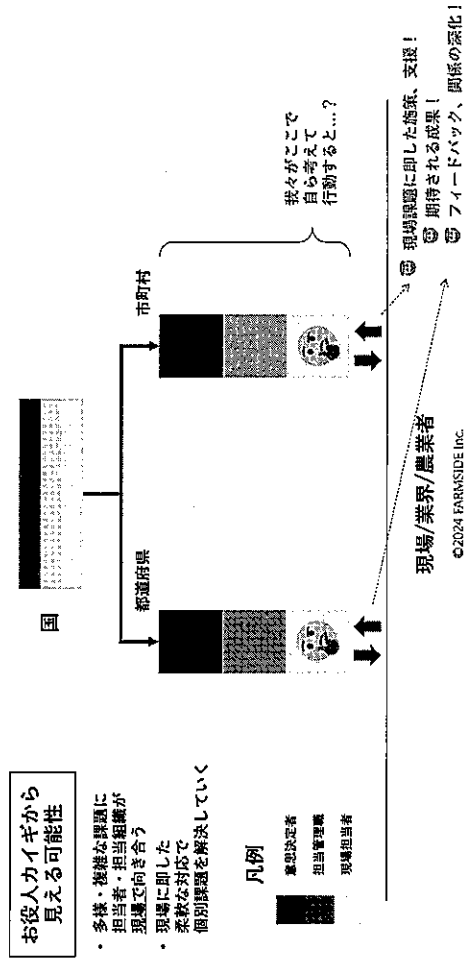
お役人カイギの意義

©2024 FARMSIDE Inc.

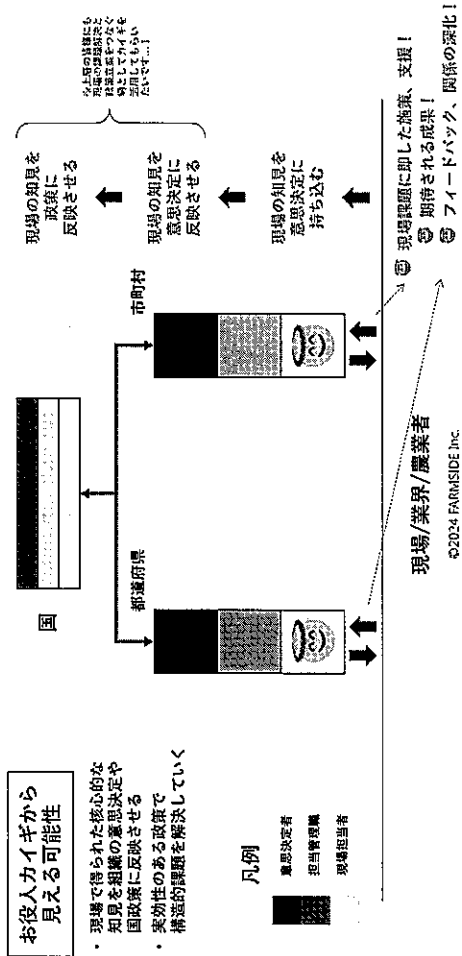
農業現場におけるお役（に立ちたい）人の存在意義



農業現場におけるお役（に立ちたい）人の存在意義



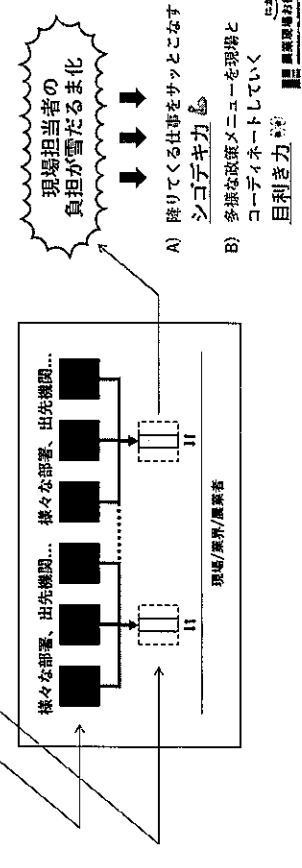
農業現場におけるお役（に立ちたい）人の存在意義



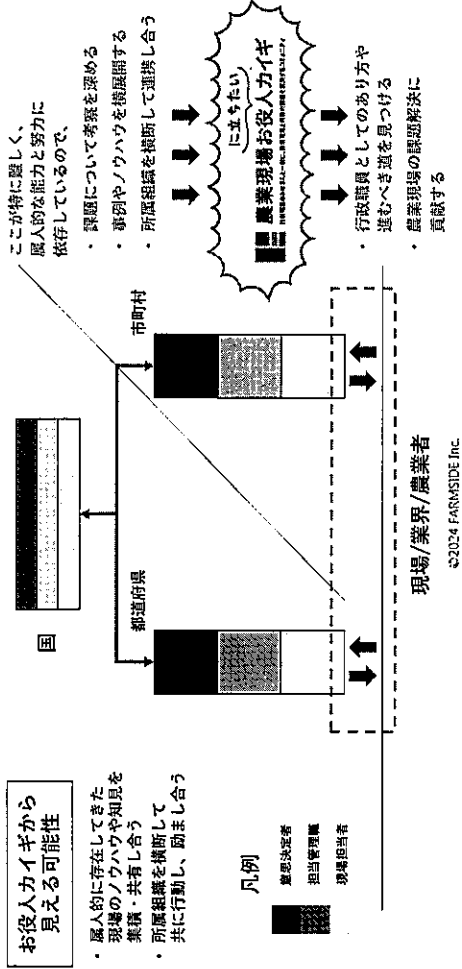
補足

現場担当者レベルの現状

- ① (多様な現場課題に対応しようとして) 政策が多様化、担当機関も増加
担い手、副担、他方担生、SDGs、スマート...
- ② (行政改革、人口減で) 現場組織は統廃合、スリム化、採用減



農業現場におけるお役（に立ちたい）人の存在意義

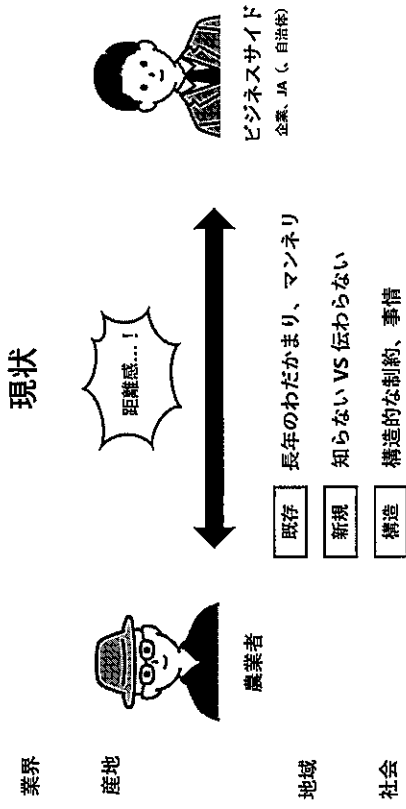


まとめ

これからの現場農政に必要なこと

1. 職員1人1人の自己燃焼
2. テンプレ以上の立ち回り
3. 他分野のノウハウ進取
4. 既存業務の見直し
5. 柔軟で合理的な組織管理
6. 越境したサードプレイス

ファーマーレレクション戦略室™



©2024 FARMSIDE Inc.

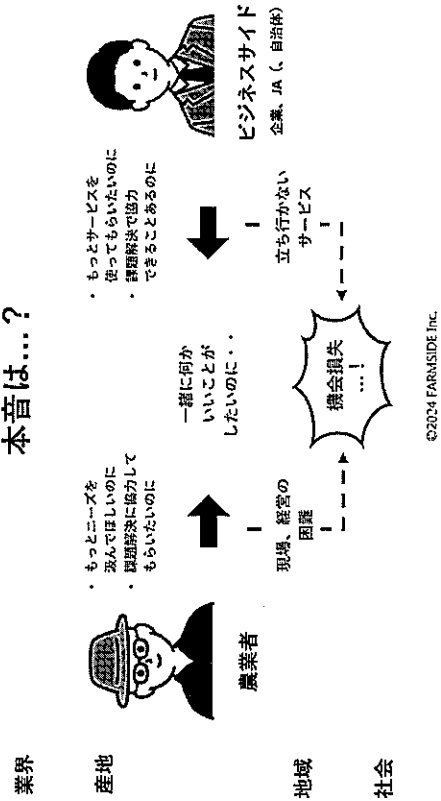
ファームサイド社のビジョン

こんなことをやっています

©2024 FARMSIDE Inc.

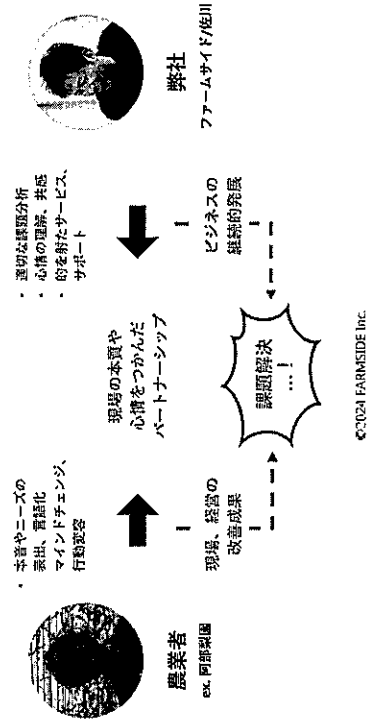
ファーマーレレクション戦略室™

本音は...?



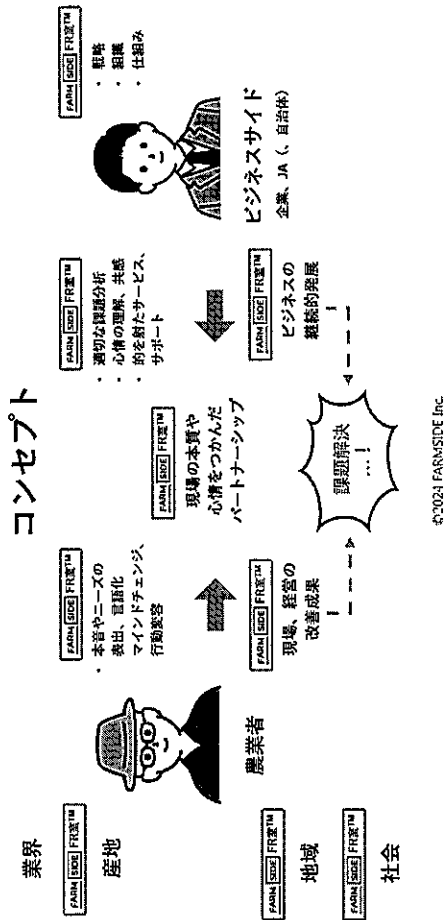
©2024 FARMSIDE Inc.

弊社事例

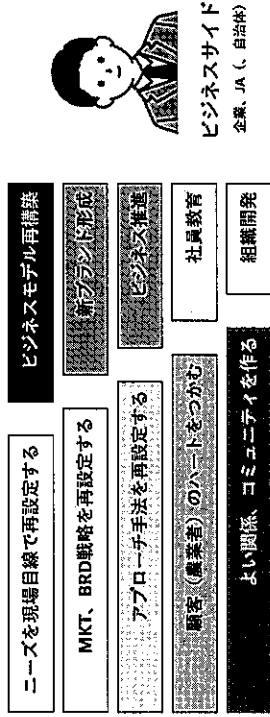


©2024 FARMSIDE Inc.

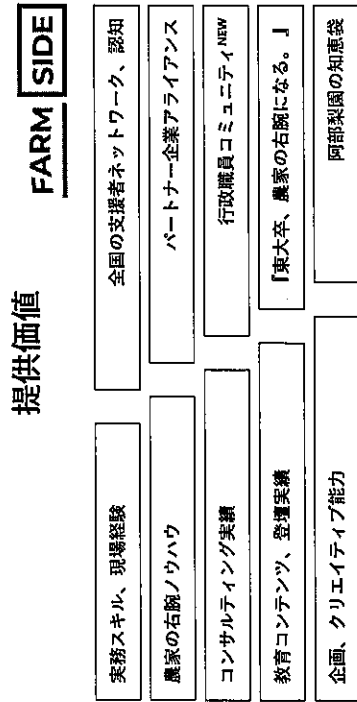
ファーマーリレーション戦略室™



モデル



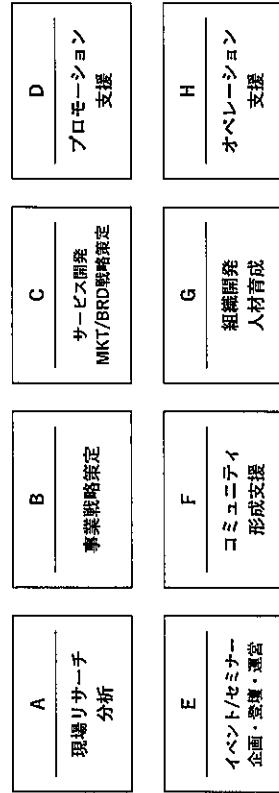
ファーマーリレーション戦略室™



ファーマーリレーション戦略室™

ファーマーリレーション戦略室™

サービスメニュー



【シンポジウムの趣旨説明】

農業における協働者のあるべき姿

内山 智裕（東京農業大学）

1. 本シンポジウムの狙い

「農村は生産の場であるとともに生活の場である」とは、1999年の食料・農業・農村基本法の制定以前から言われてきた言説だが、同基本法により農政の中に農村に関する施策が明確に位置づけられると、生産および生活の場としての農業・農村の多面的機能について様々な議論がなされてきた。その一方、農村の人口減少と高齢化は進行し、集落機能の維持・存続が危ぶまれる事態も発生している。

この間、全国の普及職員数は2005年の8,886人から2022年の7,194人へと19%減少するなど縮減を続け、これまでの農業・農村を支える仕組みへの信頼が揺らいできた。そのような中、農業経営・地域農業の課題解決に向けて、ソーシャルビジネスを標榜する事業者の台頭など、農業・農村をめぐる協働者像の変化が顕著になりつつあり、普及事業の“あるべき姿”にも変革を迫られている。

このような情勢の変化を受けて、本シンポジウムでは、改めて農業における協働および協働者のあり方、特に公的協働者の役割を問い直し、参加者全体で課題を共有しつつ議論し、農業普及への理解を深めることを目的とする。

2. 「ガイドライン」における普及指導員の役割

協同農業普及事業においては、農業の専門的技術・知識を有する普及指導員が、直接農業者に接して、農業に関する技術及び経営の指導を核として、現場での農政課題解決を総合的に支援する役割を担っている。その基本的課題は多岐にわたるが、特に重点的に取り組む普及指導活動や、普及指導活動の効果的かつ効率的実施体制として、表1の項目が挙げられている。

表1からは、課題解決に向けた取り組みにおいては、農業者はもとより、関係機関や民間企業など、あらゆるステークホルダーとの連携、すなわち連携先の「拡大」と連携の「深化」が求められるとともに、その活動は「効果的」かつ「効率的」でなければならない。そのためには、ICTや研究開発、税務・財務・労務といった経営管理に関する知見など、幅広い知識を有することも求められる。

ガイドラインでは、「普及指導員は、民間企業等の関係者が求められる役割や強みを発揮できるよう、地域農業に係る幅広い知識に基づき、関係者の役割分担を明確にして活動

に取り組む。加えて、民間企業等と農業者や地域の関係機関等とのコーディネートを含め、各個別分野にとどまらず取組全体の総括・点検等を行う」と謳われているが、その実現が容易でないことは言うまでもない。

表1 「ガイドライン」における重点的普及活動

	活動項目	連携先
重点的に取り組む普及指導活動	① 担い手の育成・確保に向けた新規就農者等への支援の充実・強化 ② 地域における新技術導入支援及び新技術体系の確立 ③ 次世代型農業支援サービスの活用促進を通じた農業経営支援 ④ 農村における多様な人材・機関との連携 ⑤ 持続可能な農業の実現に向けた環境負荷低減に資する生産体系の構築支援 ⑥ その他の基本的課題に対応した取組の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村、農業協同組合、教育機関、農業者、農地中間管理機構、農業委員会、民間企業等の関係者・関係機関 ・試験研究機関やICTベンダー、農業機械メーカー等 ・(代行業者) ・他産業従事者、他産業退職者、高齢者、障がい者、外国人等、関係機関 ・農業協同組合等の関係機関
活動の効果的かつ効率的な実施	① 農業者に対する支援の充実・強化 ② 先進的な農業者等とのパートナーシップの構築 ③ 試験研究機関との連携強化 ④ 民間企業等との連携強化 ⑤ 都道府県間の連携	<ul style="list-style-type: none"> ・普及指導活動へのICTの活用 ・先進的な農業者や地域リーダーとの意見・情報交換、協働 ・普及指導活動と研究開発の一体的取組 ・税務、会計・経理、労務管理、農畜産物加工、マーケティング、ICT、高度な機械化技術、有機農業を含む環境保全型農業、その他民間企業等から農業者に対して知見が提供される分野

(資料：農林水産省生産局「協同農業普及事業の実施についての考え方(ガイドライン)」を整理)

3. 農業普及における協働とは

上記「ガイドライン」では、「協働」という語は1度のみ登場する。すなわち、「先進的な農業者等とのパートナーシップの構築」のために、「新規就農者の育成や農業者等が持つ先進的技術の普及、実証ほの設置等による地域モデルの育成、有機農業の推進などに当たって、これら先進的な農業者等との協働に努める」との文言である。また、ここでは、協働の具体的内容にまでは踏み込んでいない。

一方、当学会では、「聞く力、つなぐ力」(農文協プロダクション2017年)、「農家・農村との協働とは何か? : 50のテーマから考える協働学入門」(農文協プロダクション2020年)にて、協働についてより踏み込んだ検討を行ってきた。特に後者では、農業・農村をめぐ

る課題解決には、「共同」「協同」に加え、多様な人々がそれぞれの立場から協力して働く「協働」が必要であるという視点から、技術との向き合い方、協働者の役割（「半当事者」である普及指導員の強み）、協働の基礎技能（能力・スキル・技術・コミュニケーション・経験・態度）、農家のどこに注目するか（着眼点・信頼・観察力）、協働の実践（農家試験・研究開発・成果発表・施策活用・営農計画・振興計画）、協働学の展望（悩む力・AKIS）といった構成で、協働の実践を具体的に検討している（表2）。

表2 「農家・農村との協働とは何か：50のテーマから考える協働学入門」構成

大項目	中項目	テーマ数
I 農業・農村をみる視点	農業・農村とは何か	3
	時代の流れと農業・農村	3
	農業・農村をめぐる新しいうごき	2
II 協働のかたちと協働者への期待	協働とは何か	3
	技術とどう向き合うか	5
	協働者の役割	5
III 協働の作法	協働の基礎技能	6
	農家のどこに注目するか	4
	農家とどう向き合うか	3
	協働の実践1	4
	協働の実践2	6
IV 協働学の展望	-	6
V 座談会 本書を深読みする	-	

（資料：日本農業普及学会編「農家・農村との協働とは何か？：50のテーマから考える協働学入門」（農文協プロダクション2020年））

4. 農業・農村における“協働”の状況変化

以上見てきたように、農業・農村における協働の流れは着実に進行しているが、その状況変化としてさらに3点を指摘したい。

一点目として、公的協働者たる普及職員の指導体制が大きく変化する岐路に立っていることがある。農林水産省農産局技術普及課「協同農業普及事業をめぐる情勢」（2024年1月）によれば、減少を続けてきた普及職員数は近年は横ばいで推移し、年齢別構成は50歳代以降が48.5%を占める一方、実務研修中の若手職員が増加、うち女性割合は43%（全体では32%）となるなど、普及指導体制だけを見ても大きく変化する前提条件が整いつつある。

二点目として、協働を支える組織形態が拡充されていることがある。2006年の会社法施

行に伴い、合同会社や有限責任事業組合といった形で会社組織等に新たな形態が生まれた
が、最近では2022年に「労働者協同組合」が設立可能となるなど、人・資本の組み合わせ
やその目的に応じた組織の選択が可能になっている。

三点目として、民間部門が普及事業に果たす役割の伸長がある。6次産業化や情報化な
ど、これまでの農業生産・経営のノウハウとは異なる分野には、民間の知識・スキルが有
効であることに加え、コーディネート機能など、これまでは普及事業が持つとされてきた
分野にも民間部門のノウハウを活かせる領域が広がっている。

5. 各報告の位置付け

以上の状況認識を踏まえ、本シンポジウムでは2名に報告をお願いした。

第1報告は、油谷百合子氏（茨城県県南農林事務所つくば地域農業改良普及センター）
に「農業・農村の協働者としての普及指導活動の役割—ニーズに応えるパン用小麦産地育
成についての取組を事例として—」をご報告いただく。新品種小麦「ゆめかおり」普及に
向け、農業経営者、関係機関、製粉会社などと連携を深め、生産量1,000トンの達成など
産地拡大に成功、学校給食への導入や大手コンビニでの販売などに結びつけた事例につい
て、関係者との信頼関係の構築と“自律化”の難しさなどについてご示唆をいただく。

第2報告は、山端直人氏（兵庫県立大学自然・環境科学研究所）に「獣害対策の視点か
らの協働者の役割—地域主体の獣害対策のための普及手法—」をご報告いただく。これま
でに300の集落や地域で取り組んできた、獣害の改善方法を「提案」し、「課題解決」を
図る実践について、関係機関による「作戦会議」や集落での聞き取り、被害状況の調査、対
策の実施に向けた組織づくりなど、普及指導員経験者としての知見も含めご披露いただく。

以上のご報告に加え、資材メーカーの立場から生物的防除・物理的防除・耕種的防除な
どの総合防除体系の普及活動を普及指導員と協働した経験に基づき、山中聡氏（ク
ロップマネジメント ラボ）にコメントをいただく。その後の総合討論では、パネルディスカ
ッション形式で、上記報告者2名、コメンテーター1名に、基調講演者の佐川友彦氏にも加
わっていただき、これからの農業・農村における協働者にあるべき姿について議論し、理
解を深める。

農業・農村の協働者としての普及指導活動の役割

ニーズに応えるパン用小麦産地育成についての取組を事例として

油谷百合子（茨城県県南農林事務所つくば地域農業改良普及センター）

1 はじめに

当事例報告は、平成 24 年度から令和 2 年度にかけて茨城県県西農林事務所坂東地域農業改良普及センターで取り組んだ普及活動について、令和 2 年度第 8 回農業普及活動高度化全国研究大会で報告したものです。

平成 29 年度から令和 2 年度の 4 年間、担当普及員として生産・販売に関わり、産地づくりを支援してきた中で、自分なりに感じた普及指導員として求められる役割について報告します。

2 取組の概要

平成 24 年当時、茨城県では小麦の収量・単価が低下し、現場の生産意欲も低くなっていた中で、新規に認定品種として登録された小麦「ゆめかおり」を普及させるため、普及センターが地域の核となる農業経営者（以下、経営者）に導入を提案し、関係機関との連携体制のもと、現地適応性の検討、事前マーケティング調査、製粉会社との交渉支援を通じて、生産・販売体制の確立を支援しました。

生産組織が設立した平成 27 年度以降は、契約量 1,000 トンを目標に、①製粉会社との信頼関係強化等による契約量の拡大、②栽培技術向上や新規経営者の確保による生産量の拡大、③ICT 等を活用した品質の維持、④販売組織の設立による体制整備について支援を行いました。

その結果、ゼロからスタートしたパン用小麦の産地は年々拡大し、令和 5 年産において目標である 1,000 トンを達成しました。さらに、学校給食への導入や大手コンビニでの販売も実現する等、取組は拡大しています。

普及指導員は、生産・販売・組織運営を総合的に支援するため、生産組織・販売組織の経営者らと常に話し合いを行い、話し合いの中で見えてきた課題に対して、時には失敗もしながら一つひとつ共に解決に取り組んできました。

3 協働者としての普及指導員の役割

上記の取組を通じて、茨城パン小麦栽培研究会（パン用小麦生産組織）の会長である経営者から「普及指導員は戦友」という言葉をいただきました。普及指導員が現場で汗をかき、課題に対して共に解決策を考えることで得られた信頼関係が、この「戦友」という言葉に込められていると感じます。

経営者との関係構築の手法は様々で、工夫のしどころかと思いますが、普及指導員に求められる最初のステップは、本音で話せる土台づくりとして、信頼関係を構築することだと思います。

信頼関係構築の後、普及指導員は「人を動かす」役割を担いますが、実際には、取組の中で経営者とじっくり話し合っている時に感じたのは、「答えは経営者がすでに持っている」ということでした。普及指導員は、経営者が胸の内に抱える課題感や、漠然としている課題解決の方向性を表出化・言語化し、解決に向けたアプローチを提示することで十分な役割を担えているのではないのでしょうか。

当事例で、解決に向けたアプローチとして用いた手法は、「現状分析と改善策の提案」、「生産分野の技術支援」、「専門家のコーディネート」の3つです。中でも有効であったのは、「解決できる人」と「現場」をつなぐコーディネートでした。実際に、当事例において、普及指導員だけで対応できたのはほんの一部で、多くは関係機関や民間企業等の力を借りました。「力を借りる」というと簡単に聞こえますが、コーディネートにおいてもっとも難しいと感じたのは、「解決できる人や組織を見つける」ということです。これに対応するために、日頃から普及活動の枠を超えて人と出会う機会を自ら創出し、情報収集に努め、自主的に学ぶことの大切さを実感しました。

広範囲化かつ高度化している農業経営の課題を解決するために、「人と人をどうつなげていくか」は、協働者としての普及指導員に求められる大きな役割であると感じます。

さらに、当事例では、産地を牽引するリーダーとなった経営者達の考えを他の経営者に伝え、小麦の品質にこだわる生産団体の規模拡大を支援してきました。このように、地域のリーダーを育て、それを波及させていく役割も重要と感じています。

4 協働者としての普及指導員の悩み

経営者との信頼関係構築が重要である一方で、信頼関係を強めれば強めるほど、業務は属人化していく感があります。「頼りにされた」、「役に立てた」という達成感は、普及指導員のモチベーションとして大きな力を発揮する一方で、手離れの悪さを助長してしまうリスクがあります。私自身、後任者にどのように引き継ぐか、経営者にどのように独り立ちしてもらおうかをきちんと考えないまま仕事を進めてきたため、適切な引継ぎができない状態で異動を迎えたという失敗の経験があります。

人に依存した業務には継続性がないため、属人化させない仕組みづくりが大切と感じます。仕組みづくりにおいては、業務の再現性が非常に重要ですが、普及活動はそれがとても難しい職種でもあります。これを改善する方法のひとつとして、これまで、普及指導員の個人的なメモや記憶に頼ってきた情報管理を、データの一元化・共有化によって「誰でもわかる」形式知にしていく取組が考えられると思います。

5 おわりに

当事例において、産地が急速に拡大してきた背景には、「今までのやり方よりも儲かる」という経営者の成功体験がありました。経営者を動かすには収益性の向上は必須です。「儲かる経営」が次のチャレンジを生むとともに、他経営者への波及の大きな力となるため、普及指導員はその視点を忘れずに、意欲ある経営者の成長を応援できる伴走者を目指したいと思います。

(注) 添付資料の詳細は、全国農業普及支援協会ホームページに掲載



添付資料

収益性の高い麦作経営への転換 ～パン用小麦1,000t産地をめざして～

茨城県西農林事務所
坂東地域農業改良普及センター

I. 活動の背景

茨城県坂東地域の中核的な普通作経営体は約40戸で、水稻に加え、麦類、ソバ等を大規模に生産している。麦類は経営の中で重要な位置づけであるにもかかわらず、平成23年当時は、品質に応じた価格交渉力がなく、低価格で取引されていた。さらに、コムギ・オオムギの主力品種に縞萎縮病が激発し、収量低下の問題にも直面していたことから、麦作経営の安定化が急務であった。そこで、普及センターでは、縞萎縮病抵抗性であるパン用小麦「ゆめかおり」の導入を提案し、収益性の高い麦作経営を目標に、産地づくりに取り組んだ。

II. 目標・課題

H24～26年度 「ゆめかおり」の産地化

- 【課題】①現地適応性の検討
- ②事前マーケティング調査
- ③努力が価格に反映される仕組みづくり

H27～R2年度 契約量1,000t産地づくり

- 【課題】①契約量の拡大
- ②生産量の拡大
- ③適正タンパク含量の維持
- ④販売組織体制の整備

III. 活動内容

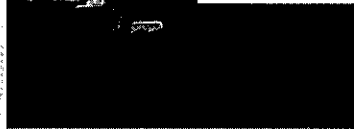
1. 「ゆめかおり」産地化への活動 (H24～26年)

①現地適応性の検討

- ・2年間の試験栽培

試験栽培の様子

- タンパク含量 12.5～13.6%
- 収量 500kg/10a以上



現地適応性があることを示す

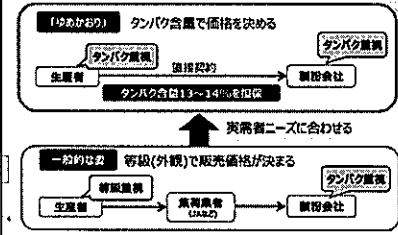
②事前マーケティング調査

- ・関係機関との連携体制構築
- ・実需者・消費者にアンケート調査



ニーズが高いことを示す

③努力が価格に反映される仕組みづくり



タンパク含量に応じた価格実現

【結果】

生産組織「茨城パン小麦栽培研究会」の発足 (H23年度:ゼロ→H27年産:5名, 35ha, 180t) →産地として認知され、有利販売が可能になる「契約量1,000t」をめざす

2. 1,000t産地をめざす活動 (H27～R2年)

ステップ1 契約量の拡大

①製粉会社との信頼関係構築

- ・全ロットのタンパク分析
- ・データを製粉会社と共有化



品質分析の様子 実需者とデータ共有

②PR活動支援

- ・圃場見学会開催支援
- ・プロモーションビデオ作成
- ・Facebook, HP立ち上げ支援



圃場見学会の様子 FBで情報発信

③学校給食導入推進

- ・地元2市町で定期的な導入実現
- ・子供達との交流による食育活動



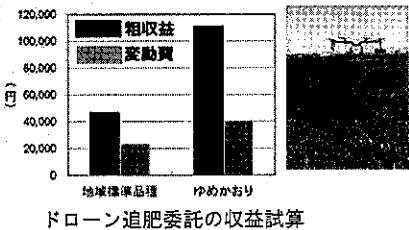
学校給食の様子 子供達との交流

要望量の急増 (R3年産790t)

ステップ2 生産量の拡大

①出穂期追肥の省力化

- ・ドローンによる追肥委託の推進



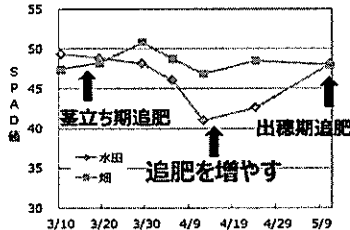
ドローン追肥委託の収益試算

ドローン追肥委託

ゼロ(H30年産)→17ha(R2年産)

②水田栽培技術の確立

- ・追肥の回数と量を増やす実証試験
- ・目標タンパクの達成



水田栽培

ゼロ(H29年産)→7ha(R2年産)

③新規生産者の確保

- ・新規加入説明会の開催
- ・実需者と連携した勧誘



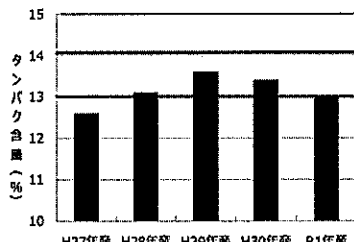
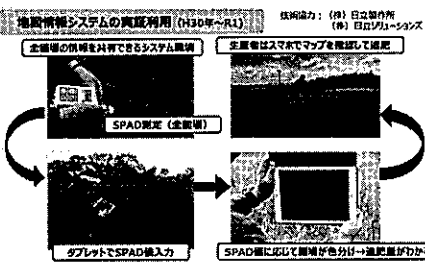
生産者

5名(H27年産)→16名(R3年産)

ステップ3 適正タンパク含量の維持

①ICTを活用した追肥マップ作成 ②タンパク計算システムの開発

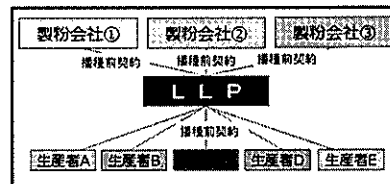
- ・生産者と普及員で情報共有
- ・SPAD測定結果を追肥マップ化



タンパク含量13~14%維持

ステップ4 組織体制の整備

- ・中小企業診断士との相談会
- ・有限責任事業組合(LLP)設立

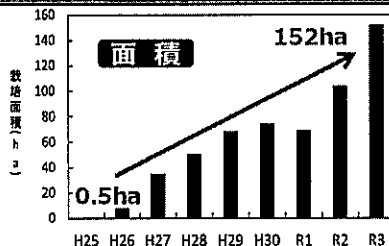


事務の簡略化, 品質統一化
取引信用力の向上

IV. 普及活動の成果

契約量の拡大【目標の60%達成】

- 生産者数
H23年当初:ゼロ→R3年産:16名
- 栽培面積
H23年当初:ゼロ→R3年産:152ha
- 契約量
H23年当初:ゼロ→R3年産:671t



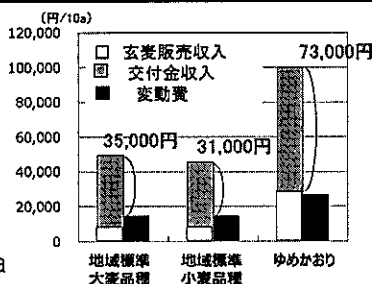
麦作経営の変化

【収益性の向上】

- 利益(販売収入+交付金-変動費) ※R元年産

「ゆめかおり」:73,000円/10a
「地域標準小麦品種」:31,000円/10a
「地域標準大麦品種」:35,000円/10a

- 「ゆめかおり」導入効果 約40,000円/10a



【生産者の意識の変化】

- 自分達の作った小麦に対する誇りが高まる
 - 生産のモチベーションが高まる
- 【波及効果】
- 筑西・結城・水戸普及センター管内から生産者が参加(8名・47ha)

V. 今後の普及活動

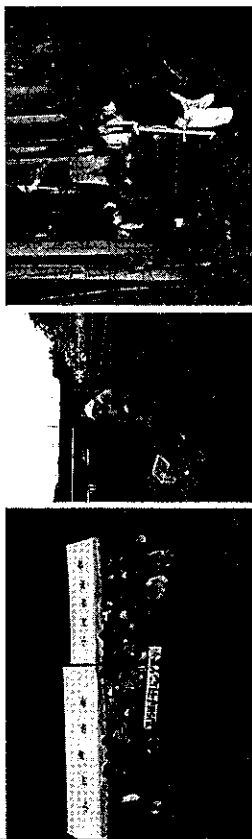
- 経営感覚のある提案
- 技術指導
- 専門家をつなぐコーディネート
- 高品質「ゆめかおり」1,000t産地づくり

【問い合わせ先】

茨城県県西農林事務所
坂東地域農業改良普及センター
TEL:0297-34-2134

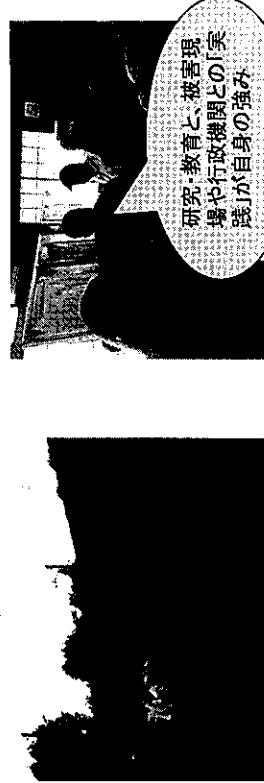
獣害対策の視点からの 協働者の役割

—地域主体の獣害対策のための普及手法—



兵庫県立大学
山端 直人

集落や地域で獣害の改善方法を「提案し」「課題解決」を図る実践
～年間で20集落、累計約300の集落で実践～



研究、教育と、被害現場や行政機関との「実践」が自身の強み

集落の合意形成理論(ご要望あれば要請)が

自己紹介

農林水産省⇒三重県庁⇒現職

山端 直人 兵庫県大
／兵庫県森林動物物研究センター

専門:「農村計画」「アクションリサーチ」
「野生動物物の被害管理」

～社会調査、集落づくり、被害防除、
捕獲、政策提案まで～

1-1 協同農業普及事業の役割

○ 協同農業普及事業は、農業の専門的技術・知識を有する者(指導員(国家資格を有する都道府県職員)が、直接農業者に対して、農業に関する技術及び経営の指導を核として、現場での農政課題解決を総合的に支援する役割を担う。

**農機人材の確保・育成
産地の形成**

農機向上のための技術講習会
新規就農者への産地開墾

**地域農業の
コーディネート**

消費直販、産地開墾、農機、行政と連携を軸に産地形成を支援する

新技術の現場定着

FD(フィールド)とR(リサーチ)の連携

その他の地域

- ・ 農機技術普及の推進
- ・ 農機技術普及に向けた農機整備
- ・ 農機技術普及に向けた農機整備
- ・ 農機技術普及に向けた農機整備

FD(フィールド)とR(リサーチ)の連携

FD(フィールド)とR(リサーチ)の連携

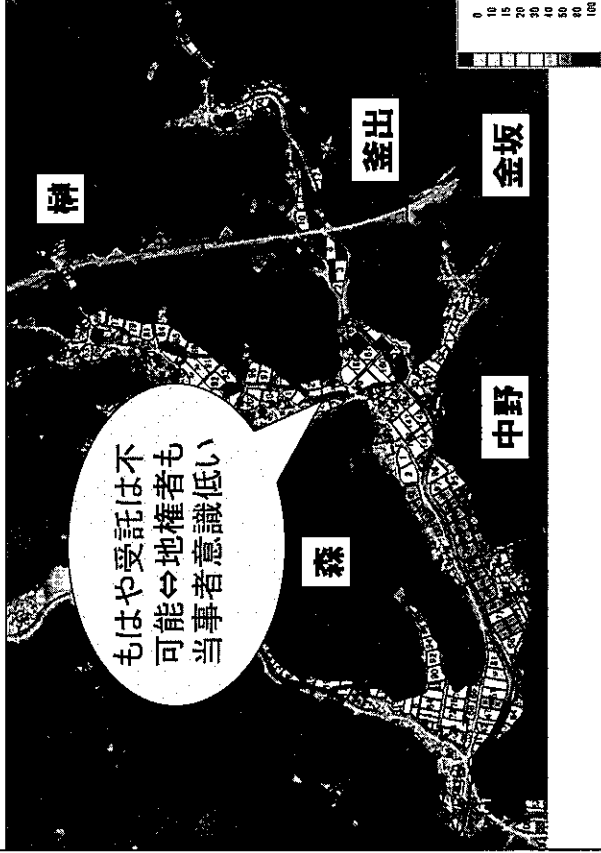
集落営農の獣害状況アンケートの結果

問：経営のうちに占める獣害の発生は？

作目	利用権		作業委託		獣害面積割合
	全経営面積	うち獣害面積	全面積	うち獣害面積	
水稲	2,671	467,755	1,308.23	371,715	28.4%
麦	1,179	54,334	913.76	69.72	7.6%
大豆	189	14.88	264.4	5.9	22.3%
野菜	308	171.6	196.7	150.42	76.4%
果樹	0	0	0	0	0
その他	108	13.95	18.7	1.2	6.4%

183経営体の調査結果

1例：矢野町北部(専業農家の受託集落)



被害程度と金額換算の結果(0氏)

集落名	経営面積 (a)	被害面積 (減収分)	獣害	作物名	換算金額 (千円)
釜出	300.9	300.9	シカ・イノシシ	水稲	2,738
神	263.7	139.4	シカ・イノシシ	水稲	1,268
森	70.5	35.2	シカ・イノシシ	水稲	320
中野	542.9	271.5	シカ・イノシシ	水稲	2,470
菅谷	213.2	73.1	シカ・イノシシ	水稲	664
入野	156.9	20.8	シカ・イノシシ	水稲	189
南内	44.7	44.7	シカ・イノシシ	水稲	407
八洞	700.9	199.2	シカ・イノシシ	水稲	1,812
小河	500.0	422	シカ・イノシシ	水稲	3,600
出	693.5	76.5	シカ・イノシシ	水稲	695
合計※	2,987.4	1,161.3	シカ・イノシシ	水稲	14,163

※13,000円/畝・7畝/10aで算出

■ 担い手農家、集落経営体が獣害で大きな損失を被っている

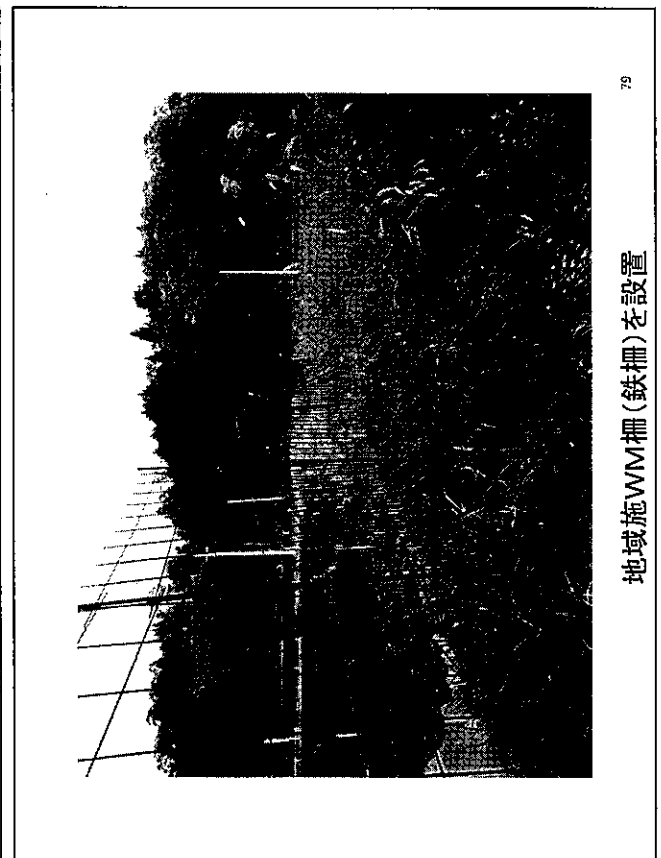
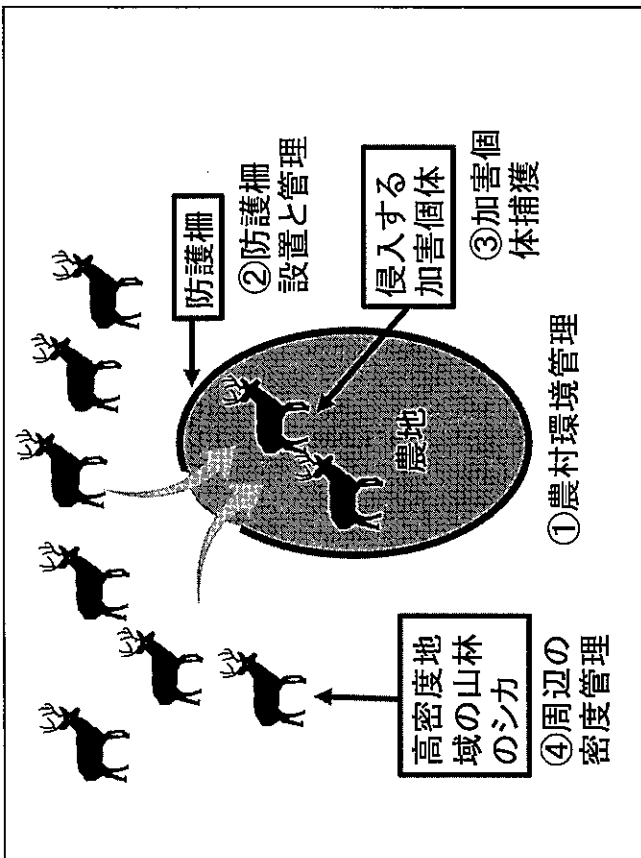
■ 獣害により放棄される集落が増加する

相生市小河

- ・戸数 75戸
- ・人口 240
- ・高齢化率 37%
- ・農家 52戸
- ・うち稲作 32戸
- ・農地 25ha

相生市小河 4班で2回/月の柵点検

2班



地域施VVM柵(鉄柵)を設置



設置したWMM柵は地域で点検

81

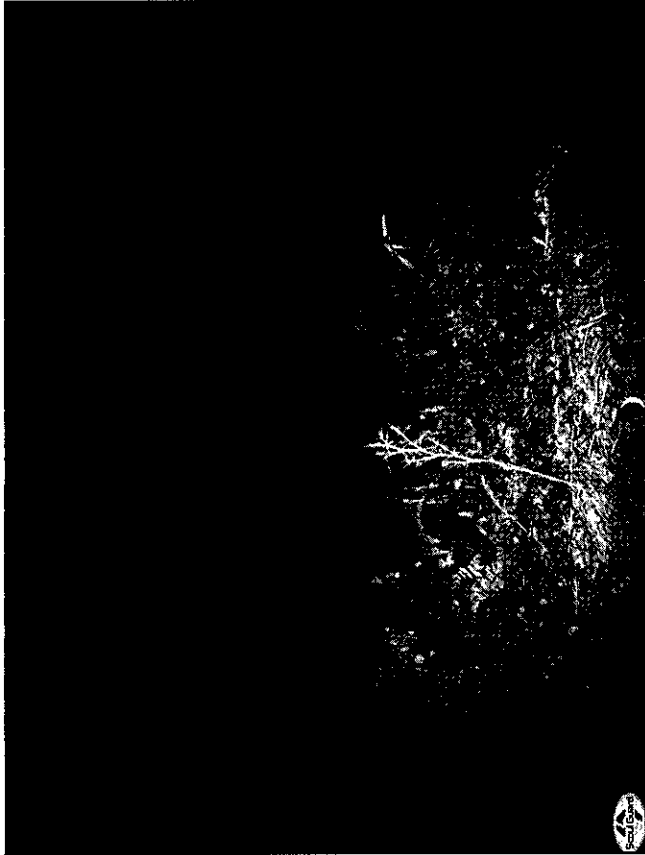
集落で捕獲を！

- 地域には捕獲者がいない
- 猟友会も小河では檻の設置をしない



- H29開始
- 集落で1名が免許取得(箱罟)
- 檻は3基購入・その後5基増設
- 工サ管理などは集落全体で分担

96

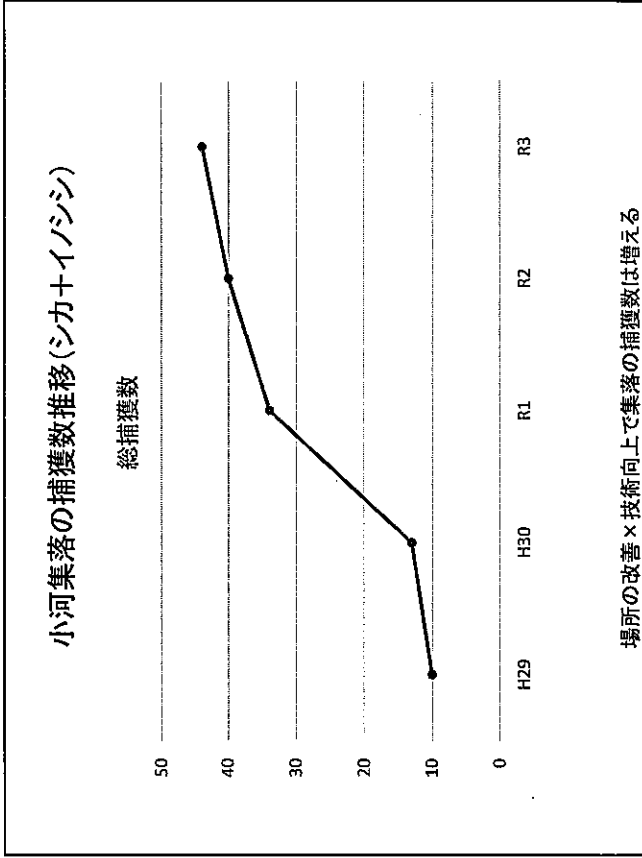


地域で箱罟を設置して捕獲

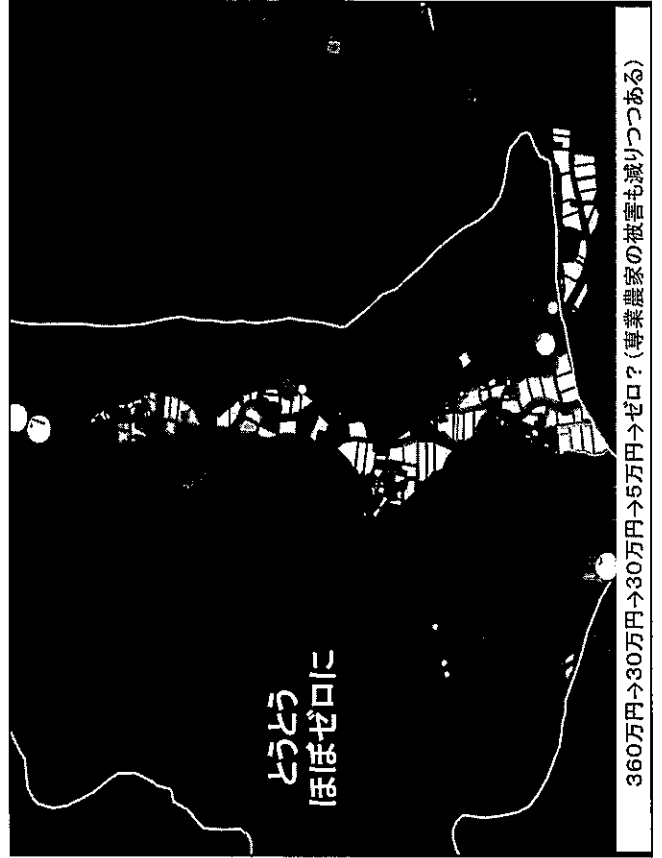
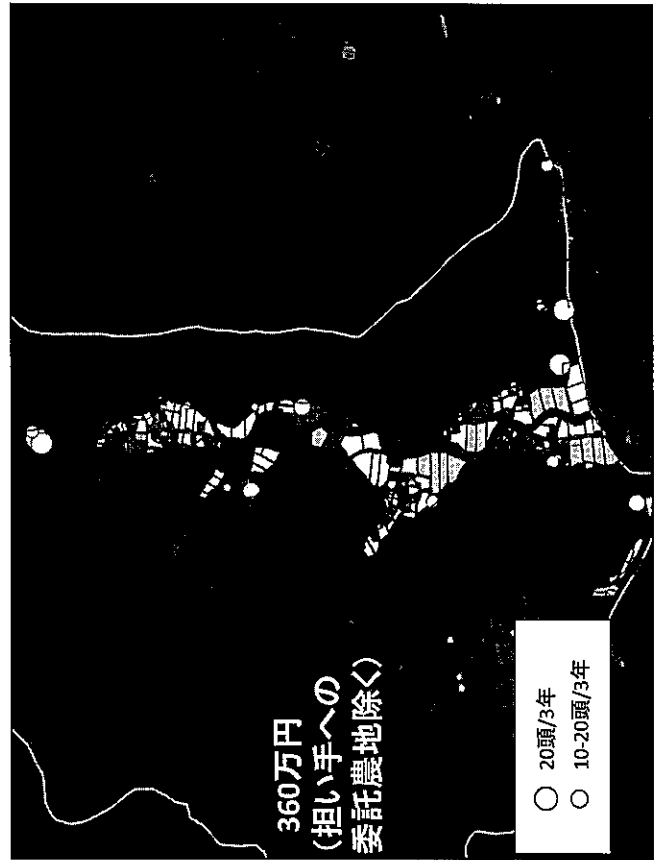
99



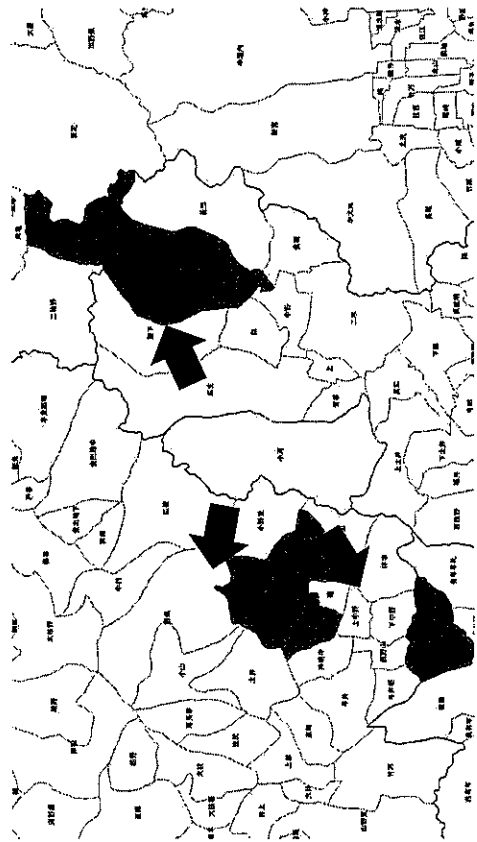
加害個体を捕獲！



場所の改善×技術向上で集落の捕獲数は増える



核となるモデルは周辺への波及効果が期待できる



大げさに言えば「社会を変える(改善)する」

→規模の大きいアクションリサーチ

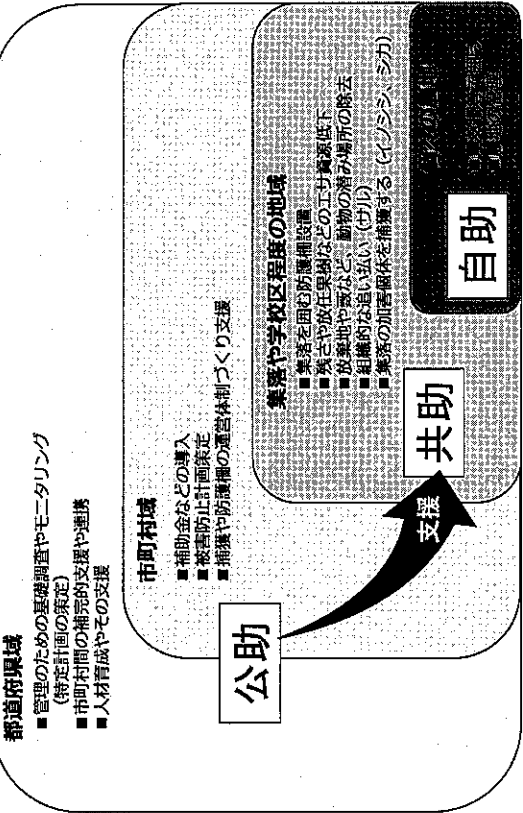
ステップ0 関係機関の協議(作戦会議)



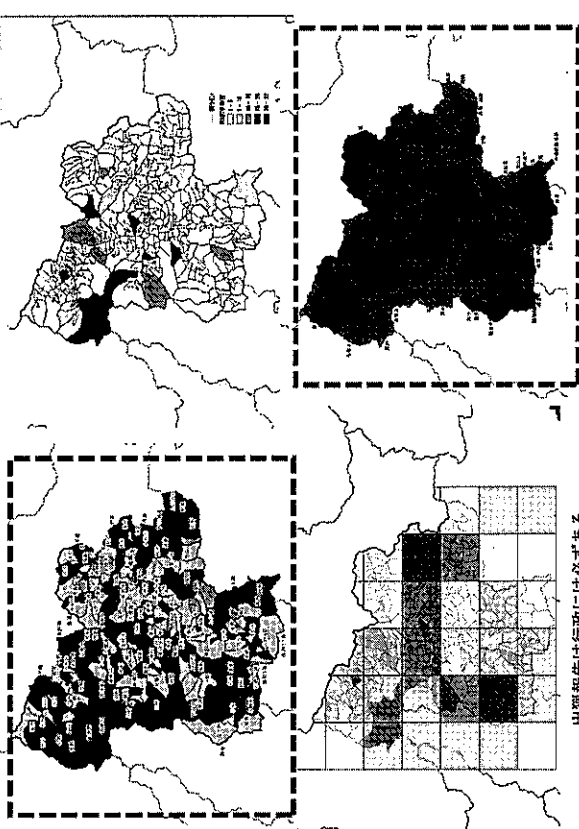
関係機関の役割分担は必須。今は役割なくとも、進展中に
役割が生まれるものです。

最初のモデルは成功させないといけない＝総力戦

野生動物管理・獣害対策の主体間の役割



いろいろできるようになります



出羽報告は行政には必ずある

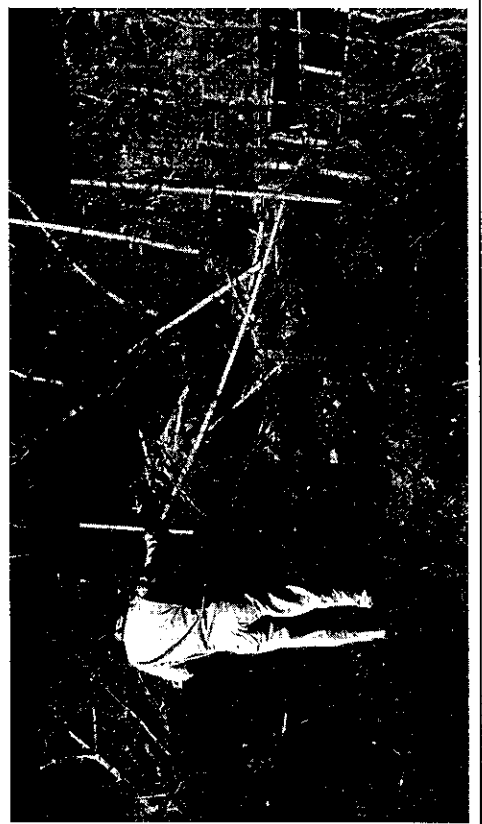
合意形成の目標

- 理解
- 納得
- 共感

「共感」を得ていく手法

ステップ2 集落の下見や課題発見

その後、自分たちで現地訪問し「課題を発見」しておく
(課題が把握できれば提案につながる)

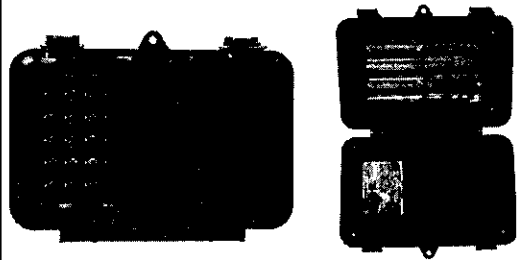


ステップ1 役員との協議や聞き取り

・役員等と集落の要望や問題、対策の方向性などを確認



ステップ3 センサーカメラ等で課題の可視化

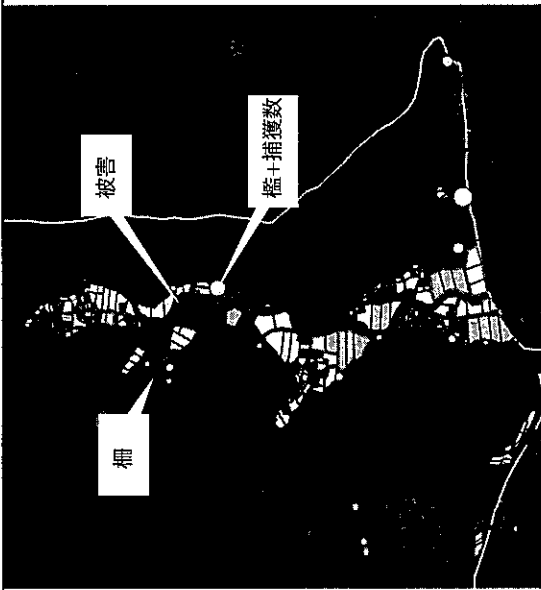


- 2～5万円程度
- 赤外線フラッシュ
- 動画1～2分
- 単三電池6～8本
- SDカードに記録
- ネットでも購入可

例：株式会社GISupply

<http://www.gisup.com/>

ステップ4 被害状況等の可視化



GISで可視化すれば、多くの関係者で共有可能⇒何か見えてくる

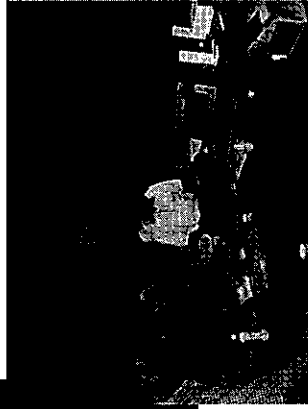
ステップ5 研修会・座談会

・研修会・座談会により、集落全体で獣害対策の基本を理解してもらいます。



伊賀市霧生地区

伊賀市鈴鹿地区



ステップ6 現地研修会・集落点検



伊賀市
岡花地区

伊賀市
川東地区

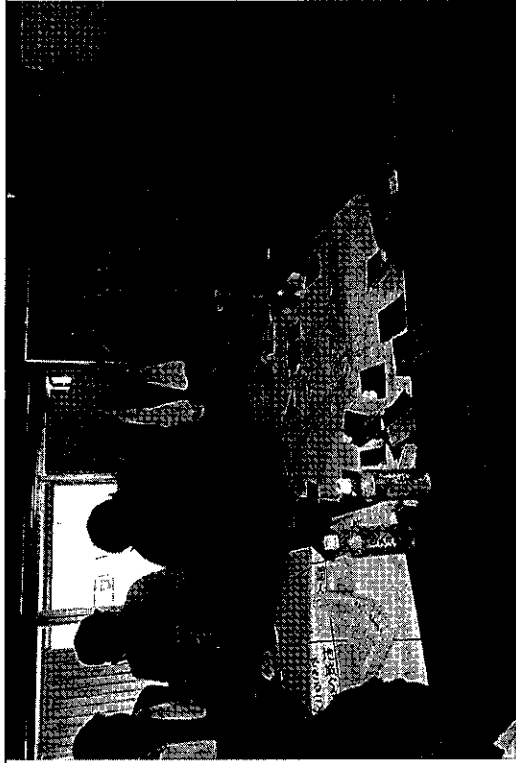
野菜クズ捨て場

獣道

間違った電柱設置

集落内の獣害場所、被害対策の現状、エサ場と
なっている状況などを点検します。おススメ！

ステップ7 ワークショップ



ワークショップは、いろいろな「地域を動かす」ことにつながります
(森動センターと一緒にやれます)

ステップ8 被害対策の実施



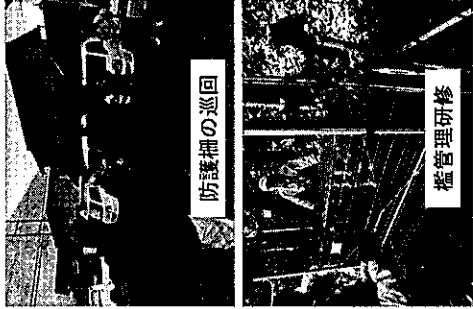
補助事業等を
活用して...



出合い作業で集落全体
に防止柵を設置

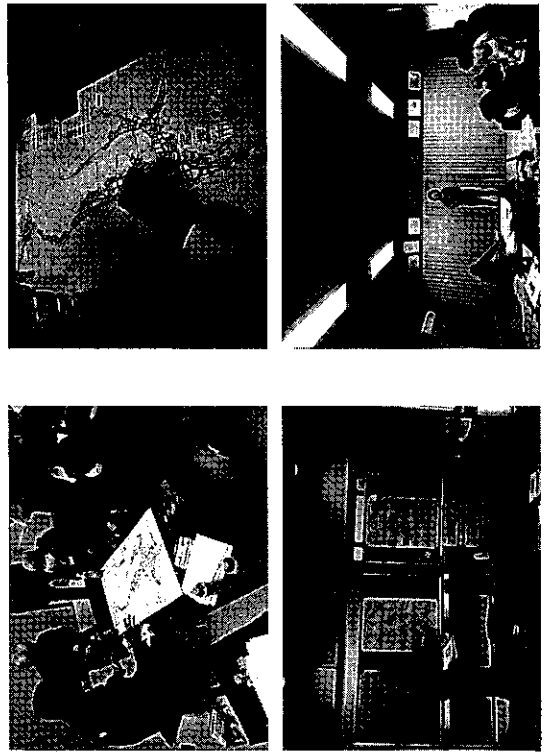
集落ぐるみでの
追い払い

ステップ9 定期的な巡回や指導・改善

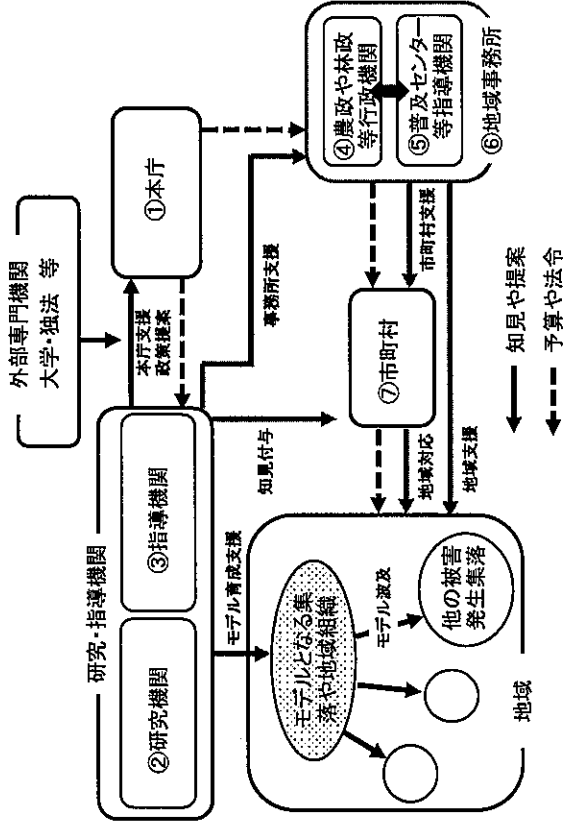


日を決めておくことおススメ。2か月に一回くらいできたら良いですけど

ステップ10 結果の評価と反省会



「獣害につよい集落」づくりを進め得る行政組織の模式図(山端2020改変)



コメンテーター・コメント

山中 聡（合同会社クロップマネジメントラボ）

1. 第1報告（茨城県坂東地域パン用小麦産地育成普及活動）へのコメント

平成24年～令和3年の9年間、米、そばという普通作地域への小麦、特に品種にこだわったパン用小麦の栽培を普及する活動は大変だったと感じます。意識の高い、あるいは低いという表現で生産者を表わしておられますが、本当に当初はこれまで通りで良いとか、無関心な方々もいるなど多種多様な集団から始められたと思います。生産者にも年齢、家族構成、所有耕地の規模等バックグラウンドの違いあり、ある意味バラバラな集団に対して、今後の農業生産のために1つの確固とした目標を掲げて取り組まれた立派な普及事例であると感じました。

普及活動の過程で多くの機関の協力を得て進めていくことは言葉では簡単に言えますが、非常に大変な作業や交渉が必要だったと思います。これらの活動をサポートされた普及センター全体の使命感に敬意を表します。当事者ではないので漠然とした表現になるかもしれませんが、今後の課題としては、まだまだ意識の低い周囲の生産者に対してパン小麦用栽培を通じて、これまでの栽培と比較してリターンは大きい一方で、同程度の作業性、労力であることを示していくことも普及戦略の1つと言えるのではないのでしょうか。

2. 第2報告（兵庫県立大学獣害対策活動）へのコメント

平成29年～令和3年までの5年間における活動について、獣害対策の集落への普及は、被害を身近に感じている生産者には理解できる活動ですが、そうでない生産者にはピンとこないでしょうし、集落全体での合意形成に苦労されたことが伺えます。特に集落全体の活動であっても、リターンは生産者個人の被害軽減であり、集落への直接的な見返りは少ないため、普及活動の実行は大変だったのではと史料します。獣害対策に乗り出して普及活動を行いながら都度課題を見つけて解決していくことで、地道に被害軽減が見え、担当者のモチベーションも維持できますが、そのモチベーションを常に保たせていくことは容易ではなく積極的に動けるリーダーが必要になってくると思います。そのような役割を演じる担当者の育成、継承が重要だと感じています。活動を通じて普及における多くの手法を見出されたと思います。獣害対策は県や地域の問題だけでなく、全国的な問題ですし、より広範囲の地域へ情報提供して広げていってほしいと思います。

3. その他

私の場合は、メーカーという立場で、化学農薬中心の慣行防除体系を行っている生産部会全体を天敵や微生物農薬を利用した生物的防除、物理的防除、耕種的防除など総合防除体系に切り替えて普及するという活動を普及指導員の皆さんと進めていく仕事に携わっていました。ある意味、日常行っている習慣を全く異なる生活習慣に変えるという活動であるため、その必要性を説くことから始めなければなりません。また、メ

一カーが直接生産者に指導するわけにはいかないので普及指導員を通じ、また JA 営農担当者、生産部会の方々の理解の上で活動を行う必要があり多くの方に理解してもらう難しさを常々感じていました。これら周囲の方々にはそれぞれの立場や、動機、思惑、さらには求めるリターンがありますから、それらを 1 つの方向にまとめ上げることが普及には重要であると感じています。みんなのスタンスがバラバラですと、良い技術でも普及しません。方向が一致すると、思った以上に速やかに普及していくことも感じました。全体の活動を俯瞰しつつ、どこを調整すれば全体が思った方向に流れていくのかを見られる、感じられる感性を持って普及に当たる必要があると感じています。

